



平成22年度

年報 第25号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



東日本大震災が起こったあの日から、私たちが生きている現場は根底から揺らぎ、大きな変容を強いられているのかもしれない。いまだに震災以外のことには、なかなか思いや関心を向ける余裕が生まれていません。とりわけ福島県の場合には、地震や津波の上に原発事故が重なったために、混乱には測り知れないものがあります。生きることや暮らすことこそが、誰しもにとって主要なテーマとならざるをえないような状況のなかでは、文化や芸術などは後回しにされがちです。しかし、この未曾有の災害からの復興にとって、文化が果たすべき大切な役割がきっとあるはずだと感じています。

このような時代においては、はたして博物館は、私たちの県立博物館は、いったい何をなすべきなのか。それが深刻なかたちで問われています。そこから眼を背けることはできません。あらためて、県立博物館としての使命や役割といったものを、みずからのアイデンティティを賭けて問い直していきたいと考えています。

さて、今こそ、福島県の文化復興のために力を尽くして働きましょう。

福島県立博物館長 **赤坂 憲雄**

夏の企画展 「森に生き山に遊ぶ！ー 福島県の森林文化ー」

福島県の森林環境税を使った展覧会で、県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して開催した。この展覧会は、福島県の豊かな森の植生、森の資源を活用した生活、森に育まれた文化について、改めて考えてみようというものである。また、30を越える会津地域の小学校が、森林環境について学習した成果を発表した。

6月26日の開幕日には、佐藤知事や菅家会津若松市長臨席のもと、華やかにオープニングセレモニーが催された。また、参加5館の館長により、「森林から未来へ」というタイトルでオープニングトークがなされ、福島県しゃくなげ大使の安藤和津さんによる「明日を素敵に生きるには」という演題の記念トークが催された。会期中には、樹木観察会や手挽きろくろの実演など、様々な行事が催された。



オープニングセレモニー



佐藤知事と共にオープニングセレモニーに参加した子供たち



参加5館の館長によるオープニングトーク



安藤和津さんによる記念トーク

東日本大震災における福島県立博物館の被害状況と被災者支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。

1. 被害状況と対応

地震直後、展示解説員が観客をすみやかにエントランス前の広場に誘導。観客、職員含めて幸い負傷者は出なかった。また、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし設備および資料に以下の被害があり、修復等の対応を行った。

(1) 管理・研究棟

棚等の倒壊はなかったが、研究室の本棚から本がかなり落下した。特に図書室では相当量の本が落下した。機器類では走査型電子顕微鏡が観察不能となった。



研究室の被災状況



図書室の被災状況

(2) 収蔵庫

- ① 第2収蔵庫（地学・考古） 2階で積み上げていた平箱が1個落下したが、資料（岩石）自体には被害はなかった。
- ② 第3収蔵庫（美術） 屏風が数枚転倒。また、棚上に置いてあった漆器が倒れ、1個が破損した。
- ③ 第4収蔵庫（植物化石） 床置きの出付ケースが元の位置からかなり動いた。



第3収蔵庫で転倒、破損した漆器



第2 収蔵庫での平箱の落下



第3 収蔵庫での屏風の転倒

(3) 展示室・体験学習室・実習室

- ①展示室全体 スポットライトの照らす方向が本来の方向からずれたものが多数あった。
- ②総合展示室全体 天井を構成している金属製の部品がはずれて一部落下した。またプラスチック製の破片が多数落下した。
- ③総合展示室「古代」 天井の躯体と展示用の大型パネルを連結しているワイヤがゆるんだ。
- ④総合展示室「近現代」 瓦が接着部分がはずれ、演示台から落下したが破損なし。
- ⑤総合展示室「自然と人間」 土層剥ぎ取り断面が1個、壁から外れて落下し、一部破損した。また、鋤山用具の水銀筒が演示台から転がり落下したが破損なし。
- ⑥部門展示室全体 天井のプラスチック製のメッシュがかなりずれた。
- ⑦部門展示室「民俗」 人形が演示台から落下したが破損なし。
- ⑧部門展示室「自然」 亜炭が演示台から落ちて一部破損した。
- ⑨展示室 部門展示室「考古」 展示中の土器2個が支持具から外れて倒れ破損した。
- ⑩部門展示室「歴史美術」 独立ケースの天井の蛍光灯の下のプラスチック製メッシュが落下。資料に破損なし。
- ⑪体験学習室 囲炉裏の上方の棚に置いていた籠が落下したが破損なし。
- ⑫実習室 「縄文土器作り」で作った土器が棚から落ちて一部破損した。



総合展示室天井から落下した金属製の部品およびプラスチック製の破片



総合展示室天井から落下した
プラスチック製破片の散乱状況



「古代」での天井の躯体と大型パネルを
連結しているワイヤのゆるみ



「近現代」での瓦の落下



「自然と人間」での剥ぎ取り断面の落下



「考古」での土器の倒壊



「歴史美術」でのメッシュの落下



体験学習室での籠の落下

以上の被害に対して、展示室の資料、演示具等の破損および天井の部品のずれについては、職員および電気・空調設備監視で博物館に常駐している業者によりすみやかに修復・復旧した。ただ、総合展示室「古代」の躯体から吊り下げていた大型パネルの撤去と、櫓を組まないといけない天井の修復については、外部の業者に依頼し修繕を行った。展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは4月12日（火）である。



櫓を組んでパネルの撤去



櫓を組んで行った木炭バス直上の天井の修復

2. 被災者支援

震災、特に福島第1原子力発電所の事故により、周辺市町村の住民の方々が会津地域にも避難してきた。この被災された方々に対して、文化施設である福島県立博物館の展示等を通して、文化的な刺激および憩いの場を提供するため、施設の一部を次の通り無料開放した。期間は平成23年3月26日（土）より博物館が再オープンするまでとした。ただし月曜日は休館。この部分開館中の入館者数は758人であった。

(1) 展示室

展示室の一部を被災された方々に無料開放した。対象とした展示は以下のふたつである。

- ① 特集展「永山亘コレクション展」 会場：企画展示室
- ② テーマ展「天神さま」 会場：部門展示室「歴史美術」

また、ビデオブースで既成のプログラムを上映した。

(2) エントランスホール

エントランスホールの大型映写装置で本県の歴史・文化・自然に関する映像を上映した。また、お茶の無料サービスを行った。

(3) 視聴覚室

大型液晶テレビを使いニュースを中心としたテレビ番組を放映した。

(4) 体験学習室

昔のおもちゃを使った遊戯、昔の衣装の着付け、化石にさわるハンズオンなどを体験してもらった。

なお、部分開館について、被災者が避難している会津若松市内の各避難所にポスター・ちらし等の配布、博物館ホームページに掲載、マスコミへのニュースメールなどを使って広報した。



エントランスホールでの「がんばろう福島」の垂幕



エントランスホールでのお茶のサービス



視聴覚室でのテレビ放映



部分開館中に開催された「永山亘コレクション展」

福島県立博物館の使命

平成19年7月公表

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、平成18年に開館20周年を迎えました。博物館は、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動をしてきました。

近年、社会情勢の変化により、博物館の存在意義の見直しと博物館ニーズへの積極的対応が要請されております。このため、今回、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめました。ついては、社会に対する責務を明確にするとともに、博物館に対してみなさんのご理解を深めていただくため、その内容を公表いたします。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にす楽しい環境を整えます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出合いふれあい博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人々が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しくて出合いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館 中期目標

目標年度：平成25年度

福島県立博物館では、「使命」に基づいて策定した11項目の「活動の指針」それぞれに「重点目標」を定め、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な実施計画（中期目標）を定めました。

よりたくさんの方々には博物館を利用していただくため、概ね年間9万人の利用者数を見込み、平成22年度には開館以来の入館者数400万人を突破、25年度には430万人を超えることを目指し努力します。

このたび、平成21年度の中期目標の達成状況を「21年度評価指標」に基づいて評価しました。その結果を公表します。達成度の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者のみなさんには中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

	平成20年度（実績）	平成21年度（実績）	平成22年度（実績）	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入館者数	83,275	93,596	95,556	90,000	90,000	90,000
累計入館者数	3,861,281	3,954,877	4,050,433	4,140,433	4,230,433	4,320,433

※「入館者数」は、企画展開催回数で大きく左右されるため、基準年（平成20年度）同様年間2回の開催を前提として算定している。

平成22年度入館者数 95,556人 目標達成

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	22年度評価指標	22年度実績	達成度	23年度評価指標	
専門機能	1. 地域の文化遺産の収集と継承	博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、具体的な資料整理の年次計画に基づき、整理・登録を進める。	5年間で収蔵資料約1万件的の整理登録達成	コレクション等1880件の整理・登録（考古：400件 民俗：450件 歴史：500件 美術：30件 自然：500件）	考古：397件 民俗：729件 歴史：3093件 美術：468件 自然：619件 計5306件の登録（達成度282%）	達成	各分野の整理計画に基づき実施。考古：400件 民俗：450件 歴史：500件 美術：30件 自然：900件 計2280件の整理・登録	
			作業効率を上げるために、機器類の定期的更新を行う。さらに資料データの入力・検索・管理をより効率化するとともに、コンピュータのOSに対応させるため、収蔵資料管理システムを一新する。	年次計画に沿った収蔵資料管理システムの一新	収蔵資料管理システムの整備に関する具体的な年次計画の策定	収蔵資料管理新システムの整備に関する年次計画とデータベースソフトの仕様原案策定	達成	現行データベースソフトの使用限界（平成25年度）に向けたシステムの一新戦略の推進	
		二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究および外部からの図書利用に資するため、年次計画に沿って図書の整理・登録および既存データの修正を進める。また、増加する図書の収蔵スペースを確保する。	図書の既存データ約9000件の修正完了	図書の既存データの修正（2000件）	既存図書のデータ2186件入力	達成	既存図書のデータ2000件入力	
		博物館資料情報の公開	収蔵資料情報（データベース）の公開はIT化事業の最終目標のひとつ。公開の方法や仕様について検討を進め、収蔵資料管理システムの一新後、公開に向けた作業を進める。また、整理が終了したコレクション等資料情報の公開を随時実施する。	年次計画に沿ったコレクション等資料情報の公開	福島県立博物館資料百選の選定とホームページへの掲載（各分野10件、計50件）	資料百選の掲載 考古：15件 民俗：4件 歴史：10件 美術：0件 自然：13件 計42/50件（達成度84%）	未達成	福島県立博物館資料百選（各分野20件、計100件）のホームページへの掲載完了	
		資料の安全な保存	地球環境保全のため、有害ガスを排出する全館蒸気を廃止している。それに代わる方法として、資料を害虫から防ぎ安全に保存するためのIPM（総合的害虫管理）を継続実施する。	年2回の文化財害虫調査を元にしたIPMの継続実施	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）	IPMを2回実施	達成	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）	
専門機能	2. 最新の研究による資料価値の発見	連携した研究活動の推進	研究の質の向上、さらに研究ネットワークを築くため、大学や文化施設あるいは民間の研究団体との共同研究を進める。	共同研究の継続実施（各年度1回以上）	共同研究の継続実施（各年度1回以上）	「恐竜時代のふくしま」「会津慶長地震プロジェクト」計2件	達成	共同研究の継続実施（各年度1回以上） 文部科学省科学研究費を申請できる研究機関としての認定を目指し、査読制度のある学術雑誌等に4件以上の論文掲載	
		3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	リニューアルの推進	バックヤードを含めたりリニューアルは、館の最重要課題のひとつ。将来の実現に向けて、リニューアルのコンセプト作りを開始し、可能なものからリニューアルを進める。	リニューアルの推進	展示替えの継続実施ハード面の部分改修	展示替え：常設展のテーマ展・ポイント展の形で実施 ハード面：中央監視システム更新熱源機器更新空調設備改修	ほぼ達成	リニューアルプロジェクトチームによるリニューアルに向けた議論と情報収集
		魅力ある常設展の展開	常設展のリピーター増加をめざし、常設展の小規模展示替え（テーマ展・ポイント展）を毎年実施する。	テーマ展・ポイント展の継続開催	テーマ展・ポイント展の開催（20回）	テーマ展：9回 ポイント展：19回 計28回	達成	テーマ展・ポイント展の開催（29回）	
専門機能	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	オリジナル企画を中心とした企画展等の開催	館オリジナル企画を中心に、学芸員の研究成果、収蔵資料を活用した企画展や特集展を、集客を考慮しバランスよく実施する。	企画展・特集展を各年度4回のペースで開催	企画展（4回）	企画展：3回 特集展：3回 計6回開催	達成	企画展・特集展を開催（5回）	

機能	活動の指針	重点目標	実 現 方 策	25年度目標	22年度評価指標	22年度実績	達成度	23年度評価指標	
専門機能		きめ細かい解説システムの実施	利用者の様々な質問に対応でき、人的コミュニケーションを大切に展示解説を維持・発展させる。	展示解説員による解説を中心に、「やさしい展示解説会」(毎週土日)等の継続実施	展示解説員による土日の「やさしい展示解説会」の継続実施	「やさしい展示解説会」をイベントのない毎週土日の午前・午後1回ずつ開催実施回数：50回総参加人数：198人	達成	展示解説員による土日の「やさしい展示解説会」および「通し解説」「部屋送り解説」の継続実施	
		継続性のある講座の開催	講座の体系化と、ストーリー性をもたせたシリーズ化を進め、利用者の継続参加を促進する。企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	講座・講演会を各年度100回のペースで開催	講座・講演会の開催(100回)	講座・講演会等の行事を115回開催	達成	講座・講演会の開催(100回)	
交流機能	4. 楽しめて出会いのある空間の創出	エントランスホールの多目的利用	エントランスホールや屋外という開かれた空間を使用し、博物館の展示・資料などと関連をもたせた無料のイベントを開催する。市民団体による企画・運営も検討する。	四季のイベントを中心としたエントランス周りでのイベントの継続実施(各年度4回)	エントランス周りでのイベント開催(4回)	ミュージアムイベントを6回開催	達成	東日本大震災による被災者を支援するためのメッセージを込めた「ふくしま応援ミュージアムイベント」の開催(7回)	
		利用者の快適性と利便性の促進	当館の常設の売店では、館発行の図書・絵葉書のみを販売しており、利用者の多様なニーズに対応していない。20年度秋から企画展開催時を中心に試行しているミュージアムショップの運営とオリジナルグッズの開発を軌道に乗せる。	企画展等に合わせたミュージアムショップの運営とグッズの開発	常設の売店に加え、企画展等展示会に合わせたショップの運営(3回)	博物館友の会と連携したミュージアムショップの運営①千少庵と蒲生氏郷(4/17～5/9)11日②森に生き山に遊ぶ!(7/17～8/8)9日③漆のチカラ(10/9～10/30)5日	達成	博物館友の会と連携したミュージアムショップの運営について再検討	
		体験型の行事・講座の開催	来館者が参加できる体験型講座を増やす。また、それをイベント等と連結するよう試みる。	体験型の講座・プログラムの実施(各年度50回)	体験型学習の実施(50回)	体験型講座：33回 体験型イベント：2回 ハンズオンコーナー：2回 団体系験：17回 計54回実施	達成	体験型学習の実施(50回)	
	5. 博物館事業への住民参加	ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進する。	自然資料整理ボランティア(通年)、古文書整理ボランティア(月2回)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ	ボランティア自然資料整理：2名 古文書整理：10名 漆の芸術祭：21名	達成	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ	
		6. 博物館情報の発信と公開	効果的な広報の展開	マスコミを始め、外部の各種メディアへの情報提供を継続するとともに、博物館からの情報発信媒体の内容と体裁の見直しを図る。とりわけホームページによる広報に力を入れる。	ホームページアクセス件数各年度40万件	ホームページアクセス件数40万件	ホームページアクセス件数442767件	達成	ホームページアクセス件数45万件
	7. 地域ネットワークの拠点	市町村との連携促進	市町村の文化施設との共同企画展の実施や、博物館資料を提供し展示協力を行う。移動展用のパッケージ化した展示を用意し、要望があれば22年度から実施する。	パッケージ移動展の普及等による移動展の継続実施	移動展開催(1回以上)	移動展1回開催	移動展1回開催	達成	移動展開催(1回以上)
		各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体などからの展示会や講座の開催依頼には積極的に対応し、また、共同企画を立ち上げるなど事業の連携を進める。	後援行事の受入を継続実施(各年度10件以上)	後援受入基準の作成後援行事の実施(10件以上)	後援受入基準の策定後援行事の実施回数(14件)	達成	後援行事の実施(10件以上) 会津・漆の芸術祭を継続開催し、展示・イベント、各団体との連携、ボランティア・学生等の受け入れを実施	
	8. 新しい観光ニーズへの対応	観光事業団体との連携	観光事業団体との連携を強め、会津地域への一層の集客を図ると共に、新しい観光ニーズに対応した企画を検討する。	観光事業団体との連携活動(PR・催事等)の実施(各年度1件以上)	観光事業団体との連携(1件以上)	漆の芸術祭で、あいづふるさと市町村圏協議会、東日本旅客鉄道、福島県観光物産交流協会、会津若松市観光公社、会津若松観光物産協会、喜多方観光協会と連携して事業を実施	達成	観光事業団体との連携(1件以上) 磐梯山ジオパーク構想を進め、日本ジオパークとして磐梯山地域が認定されることを実現	
運営機能	9. 使命の明示と事業の点検	使命・目標の策定	使命に基づき、平成25年度を目標年度とした中期目標を作成し、それと連動した評価システムを作る。毎年評価・点検を行い、それをもとに計画に修正を加える。	中期目標に基づいた評価・点検の実施と計画の修正(各年度1回)	中期目標に基づいた平成21年度事業の評価・点検の実施と平成22年度計画の策定	21年度評価・点検の実施と22年度計画の策定	達成	中期目標に基づいた平成22年度事業の評価・点検の実施と平成23年度計画の策定	
		事業の結果を点検・評価し、それを年報やホームページで公表する。	事業の評価と改善点を毎年公表	中期目標の平成21年度達成状況および22年度評価指標を公表	中期目標の平成21年度達成状況および22年度評価指標を公表	達成	中期目標の平成22年度達成状況および23年度評価指標を公表		
	利用者ニーズの把握と対応	入館者数など博物館利用に関する統計をとり、これらの分析を行う。	入館者統計の分析に基づいた事業の改善を毎年実施	入館者統計の分析に基づいた展示替え、広報活動等の実施	季節による来館者層の違いを考慮した展示会の開催来館者が多い他県の学校への集中的広報	ほぼ達成	入館者統計の分析に基づいた展示替え、広報活動等の実施		

機能	活動の指針	重点目標	実 現 方 策	25年度目標	22年度評価指標	22年度実績	達成度	23年度評価指標
運 営 機 能			運営・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートの基本的様式と項目を、それぞれの目的に沿って定め実施する。	アンケートによる利用者満足度8割以上の達成維持	新規行事の際には可能な限りアンケートを実施アンケートによる利用者満足度8割以上の達成批判的意見に対する適切な処理	合計満足度93.5% 新規行事15件のうち“満足度”に関する評価値が得られたのは9件のみ 批判的意見に対して物理的に不可能なものの以外は対応	不十分	新規行事の際には可能な限りアンケートを実施アンケートによる利用者満足度8割以上の達成批判的意見に対する適切な処理
	10. 人材の育成と機能的な組織	学芸員の専門性の重視	学会等研修会へ積極的に参加し、学芸員としての専門的能力を向上させる。	学芸員による学会等研修会への参加（各年度5件以上）	学芸員による学会等研修会への参加（5件）	無形民俗文化研究協議会、文化財保存修復学会、地球惑星科学連合大会、東北美術史学会（2人）計5件	達成	学芸員による学会等研修会への参加（6件以上）
	11. 危機管理（追加指針）	来館者の生命の危機への対応	地震・火災に対する避難マニュアルを作成し、訓練を実施する。	地震・火災避難訓練の年1回実施	地震・火災の避難訓練実施（1回）	避難訓練実施1回	達成	地震・火災の避難訓練実施（1回） 地震・火災時における観客の適切な誘導
		資料の危機への対応	企画展示室や収蔵庫における安定した温湿度条件の確保（特に冬場）のための改善対策を図る。	収蔵庫・展示室の温湿度計測の月1回の継続実施	収蔵庫・展示室における温湿度の計測（月1回）	毎月1回計12回実施	達成	収蔵庫・展示室における温湿度の計測（月1回）
	（追加）	県内文化財の保全	本県の文化財の研究・収蔵施設の拠点として、県内の文化財（自然史資料も含む）の保全のために努力する。	県内の文化財についての調査研究を継続する。その上で、災害時における被災状況の把握と保全のための対策を、行政および文化施設等と協力して実施	—	—	—	ふくしま歴史資料保存ネットワークと連携した、東日本大震災による被災資料の救出・復元・保管作業の実施
	個人情報保護	県のセキュリティ対策に基づき、個人情報情報は分散しないように一元的に管理し、必要な場合は適切に廃棄する。また、コンピュータへのウイルス対策を常時実施する。	県のセキュリティ監査の継続実施（年1回）とチェックのクリア	県のセキュリティ監査によるチェックのクリア	26人20項目中、延べ不適項目数10 不適合率10/520=1.9% 総合評価：適正ではあるが十分ではない	ほぼ達成	県のセキュリティ監査によるチェックのクリア	

●総 評

中期目標の平成22年度評価指標については、入館者数を始めほとんど達成されました。

収蔵資料の整理・登録については、平成21年度の実績では達成できない分野がありましたが、22年度についてはどの分野も指標を上回る成果をあげました。

資料百選の公開については達成されなかった分野がありました。これについては平成23年度に百選の公開を完了する計画です。

新規行事についてのアンケートは必ず実施することとし、満足度についての評価値を算出するものとします。

平成23年度は、特に東日本大震災の被災者支援や被害に対応した事業を新たに計画しました。また、会津・漆の芸術祭と磐梯山ジオパーク構想の推進を新たに指標として加えました。

目 次

I	沿 革	1
II	事業の概要	3
	1. 資料収集事業	3
	(1) 収集展示委員会	3
	(2) 受贈・受託	3
	(3) 購 入	3
	2. 保存管理事業	4
	(1) 資料の収蔵	4
	(2) 登録・整理	5
	(3) 貸 出	6
	(4) 保 存	6
	3. 展示事業	7
	(1) 常設展示	7
	(2) 企画展示	11
	(3) 特集展	16
	(4) 移動展	19
	(5) 展示解説	22
	(6) 体験学習室	23
	4. 調査研究事業	24
	(1) 展示資料調査研究	24
	(2) その他の調査研究事業	26
	(3) 職員の研究活動	27
	5. 教育普及事業	29
	(1) 講座・講演会	29
	(2) ミュージアムイベント	38
	(3) 館長サタデープロジェクト	40
	(4) 学校・文化施設との連携	42
	(5) 生涯学習・研究支援	45
	6. 広報公聴活動および出版事業	46
	(1) 広報活動	46
	(2) 公聴活動	49
	(3) 出版事業	49
	7. 博物館友の会活動への支援	50
	(1) 友の会活動への支援	50
	(2) 友の会の活動状況	50
	8. 連携事業	53
	(1) 会津・漆の芸術祭	53
	(2) 福島の映像文化アーカイブ事業	53
	(3) 磐梯山ジオパーク構想推進事業	55
III	管理運営	58
	1. 組織・職員	58
	2. 予 算	59
	3. 委員会の開催	60
	(1) 運営協議会	60
IV	利用状況	61
	1. 入館者統計	61
	(1) 平成22年度入館者統計	61
	(2) 入館者の推移	62
	(3) 企画展入館者統計	64
	2. 出版物販売	66
V	法 規	68
	福島県立博物館条例	68
	福島県立博物館運営協議会条例	69
	福島県立博物館条例施行規則	69
	福島県立博物館組織規則	72
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	73
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	73
	福島県立博物館資料所在調査要領	73
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	74
	福島県立博物館友の会規約	74
VI	施設の概要	76
	1. 建築概要	76
	2. 設 備	76
	3. 平面図・各室一覧	77
	4. 施設の修理・改築	79
VII	利用案内	80

I 沿 革

《開館にいたるまで》

- 昭和52年 5月13日 文化を考える県民会議の設置
6～ 8月 文化に関する県民意識調査の実施
- 昭和53年 1月24日 文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日 第1回文化振興会議開催
- 昭和54年 2月 2日 文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日 文化施設等整備基金条例制定
4月 1日 福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
12月24日 福島県美術品等取得基金条例制定
- 昭和55年 4月 1日 福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
- 昭和56年 1月26日 県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月 3日 県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
- 昭和57年 2月18日 県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
- 昭和58年 7月30日 建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所）
展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
- 昭和59年 6月 8日 建設工事契約（㈱清水建設仙台支店・㈱会津土建・㈱秋山建設による共同企業体）
7月10日 展示工事委託契約（㈱トータルメディア開発研究所・㈱乃村工藝社・㈱丹青社による共同企業体）
7月13日 展示工事着工（～61.9.10）
- 昭和61年 3月25日 県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1 施行）
3月31日 県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月 1日 県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月 1日 展示解説員19名採用
10月18日 県立博物館開館
-

《開館してから》

- 昭和61年11月28日 登録博物館の指定（第10号）
- 昭和63年 8月21日 入館者50万人達成
- 平成元年 3月10日 友の会設立
- 平成 2年10月 7日 入館者100万人達成
- 平成 4年 3月31日 日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
- 平成 5年 4月 1日 展示解説員22名となる
- 平成 7年 5月 5日 入館者200万人達成
- 平成 8年10月 5日 開館10周年記念式典を催す
- 平成12年10月15日 入館者300万人達成
- 平成13年 1月25日 博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
- 平成14年 3月25日 博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
- 平成15年 3月24日 博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を料とする
3月28日 高橋富雄館長 「金曜講座」第393回目開催

- 3月31日 高橋富雄館長退任
4月 1日 赤坂憲雄が県立博物館長に就任
前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年 4月 8日 赤坂憲雄館長・学芸員 「木曜の広場」第1回開催
平成17年 5月 6日 入館者350万人達成
平成18年 9月29日 博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年 7月21日 当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹ー列島の文化北から南からー」を開催
平成20年 7月19日 磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日 県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「森に生き山に遊ぶ！ーふくしまの森林文化ー」を開催

II 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

(ア) 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

収集展示委員会委員名簿

氏名	役職名	専門	備考
岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古	委員長
有賀 祥隆	元東北大学文学部教授	仏教絵画	委員
入間田 宣夫	東北芸術工科大学東北文化研究センター教授	中世史	同
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部教授	民俗	同
岡田 清一	東北福祉大学教授	中世史	同
斎藤 常正	元東北大学理学部教授	古生物	同
平川 南	国立歴史民俗博物館館長	古代史	同
原田 一敏	東京国立博物館上席研究員	工芸	同
村川 友彦	福島県史学会会長	近世・近代史	同
佐々木利和	国立民族学博物館教授	近世史	同
柳田 俊雄	東北大学総合学術博物館教授	考古	同
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	考古	同

(イ) 会議

平成22年度は会議を開催しなかった。平成22年度事業の実施概要と平成23年度の事業計画についての資料を郵送し、意見を伺った。

(2) 受贈・受託

(ア) 歴史資料

1. 受贈

漆器資料 他	2件	個人
東都高名会席盡し 他	11件	個人
日乗（石井研堂日記）他	27件	個人
東海道五十三次 他	13件	個人
文机	1件	個人
扇風機	1件	個人

2. 受託

篠澤家文書	一括	個人
盛秀知行免許状 他	2件	個人
紙本著色蒲生氏郷像	1件	西光寺
絹本着色 飯豊山山道絵図 他	4件	飯豊山神社
第三十一国立銀行券五円券 他	3件	個人
松平容保和歌短冊・書状	1件	個人
牛澤組絵図 他	3件	個人
牛澤組絵図 他	3件	個人
		会津坂下町教育委員会教育長

(イ) 美術資料

1. 受贈

蒔絵図案集、会津漆器図案集 2件 個人

2. 受託

芋銭落款「鎌風来図」 1件 個人
渡辺東郊「白虎隊自刃図」 1件 個人
朱塗瓶子 他 3件 個人

(ウ) 民俗資料

1. 受贈

棺台 1件 個人
子ども綿入れ 他 2件 個人
炭火アイロン 他 7件 個人
8ミリ映写機 他 5件 個人
8ミリフィルム「哀しみの蒸気機関車」 1件 個人
8ミリフィルムカメラ 他 2件 個人
板かるた 1件 個人
嶋台 他 2件 個人
8ミリフィルム映写機 他 3件 個人
8ミリフィルムエディター 他 4件 個人

(エ) 考古資料

1. 受贈

三葉環刀把頭 他 2件 個人

2. 受託

荒屋敷遺跡出土資料 一括
三島町教育委員会教育長

(オ) 自然資料

1. 受贈

布沢層産 コシオリエビ化石 1件 個人
玉山層産動物化石 他 286件 個人
反射実体鏡 1件 個人
気象観測機器 4件

(個人3件、若松測候所1件)

若松測候所関連資料（写真）10件 若松測候所

2. 受託

南極観測試料および機材 67件 個人

(3) 購入

(ア) 美術資料

浦上秋琴筆「秋溪独釣図」 1件

(イ) 自然資料

硬骨魚類化石 2件
古生代サンゴ化石他 18件

(ウ) 図書資料

1. 一般図書

考古分野43冊、歴史分野34冊、美術分野33冊、民俗分野38冊、自然分野54冊、保存分野14冊、その他2冊 計218冊

2. 定期刊行物

定期刊行物リスト

No.	雑誌名	分野
1	ナショナルジオグラフィック	共通
2	信濃	共通
3	ミュゼ	共通
4	史林	共通
5	月刊文化財	共通
6	たくさんのふしぎ	共通
7	ニュートン	共通
8	考古学研究	考古
9	考古学雑誌	考古
10	古代文化	考古
11	文化財発掘出土情報	考古
12	考古学ジャーナル	考古

13	季刊考古学	考古
14	宗教研究	民俗
15	日本民俗学	民俗
16	ヒストリア	歴史
17	史学雑誌	歴史
18	歴史評論	歴史
19	地方史研究	歴史
20	日本史研究	歴史
21	日本歴史	歴史
22	歴史学研究	歴史
23	仏教芸術	美術
24	日本の美術	美術
25	芸術新潮	美術
26	国華	美術
27	第四紀研究	自然
28	日経サイエンス	自然
29	科学	自然
30	海洋	自然
31	地球	自然
32	Journal of the Foraminiferal Research	自然
33	化学	保存科学

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

(ア) 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、

現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数えている。

収集資料数

(平成23年3月31日現在)

分野	数量	備考
考古	18,488	土器・石器・金属器ほか
民俗	12,719	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	20,940	書籍・文書資料ほか
美術	6,108	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	48,023	化石・岩石・鉱物ほか
合計	106,278	

収蔵指定文化財（寄託資料を含む）

連番	指定者	指定種別	資料種類	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	銅鉢	2	口	指定40中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
9	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託

11	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	彫刻	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
15	福島県	重要文化財	彫刻	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	軀	寄託
16	福島県	重要文化財	彫刻	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	軀	寄託
17	福島県	重要文化財	工芸品	銅鉢	1	口	寄託
18	福島県	重要文化財	工芸品	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
19	福島県	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
20	福島県	重要文化財	書跡	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
21	福島県	重要文化財	書跡	相馬家系図	1	巻	寄託
22	福島県	重要文化財	典籍	家世実紀	277	冊	館蔵
23	福島県	重要文化財	古文書	築田家文書	一括		寄託
24	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
25	福島県	重要文化財	考古資料	福島信夫山出土品	一括		館蔵
26	福島県	重要文化財	考古資料	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
27	福島県	重要文化財	考古資料	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
28	福島県	重要文化財	考古資料	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
29	福島県	重要文化財	考古資料	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
30	福島県	重要文化財	考古資料	田村山古墳出土品	一括		寄託
31	福島県	重要文化財	考古資料	森北1号墳出土品	一括		寄託
32	福島県	重要文化財	考古資料	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
33	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
34	福島県	重要文化財	歴史資料	陸奥内会津城絵図	1	鋪	館蔵
35	福島県	重要有形民俗文化財	有形民俗文化財	上行合人形	368	点	寄託
36	福島県	天然記念物	化石	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

(イ) 図書および映像資料

1. 収蔵図書数（平成23年3月31日現在）

考古分野：21,488冊 民俗分野：4,153冊
 歴史分野：9,209冊 美術分野：3,379冊
 自然分野：15,114冊 保存分野：1,380冊
 その他：48,803冊

合計：103,526冊

2. 収蔵映像資料数（平成23年3月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,370点

(2) 登録・整理

(ア) 資料管理システムの運用

平成14年度に現在の資料管理システムを導入し、それに伴い館内ネットワークを構築し、サーバー・クライアント方式で資料の登録・管理を実施している。その後、老朽化により故障がちとなった一部機器類を平成19年度末に更新している。平成22年度は、博物館資料の登録・管理をはじめ、データのバックアップ、システムのアップデートなどのメンテナンスなどを継続して実施した。

(イ) 資料の登録

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。

登録資料数（平成23年3月31日現在）

資料類別	登録資料 (平成22年度)	登録資料 (累計)
考古資料類	397	10,833
民俗資料類	729	13,833
歴史資料類	3,093	35,507
美術工芸品類	468	6,211
自然標本類	619	21,875
合計	5,306	87,802

(ウ) ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

1. 自然資料整理

猪俣桂次 標本への注記（受入番号書き込み）
 通年 整理点数859点
 桑原 功 鈴木敬治植物化石コレクションの
 クリーニング・整理・同定作業延

日数44日 作業点数323点
吉田有美 鈴木敬治植物化石コレクションの
登録 延日数3日 登録点数19点

2. 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者10名のうち
9名が、延べ108日参加し、築田則光家寄託

資料622点の整理（表題・年代・法量などの
データ採取）を行った。参加者は五十嵐晴日
子、大竹フミ、大堀義子、小熊和子、川原太
郎、佐藤敏子、佐藤佑樹、鈴木清二、星甚恵
の諸氏。

(3) 貸出

(ア) 博物館資料

貸出資料

資 料 名	貸 出 先	期 間	展 覧 会 名
桜井遺跡出土遺物54点	南相馬市博物館	4月1日～ 平成23年3月31日	同館常設展
三貫地貝塚出土骨角器5点	福島県文化財センター白 河館（まほろん）	4月1日～ 平成23年3月31日	同館常設展「暮らしをささえた 道具たち」
新生代植物化石14点	ふくしま海洋科学館 （アクアマリンふくしま）	4月1日～ 平成23年3月31日	常設展「いわき地方の化石」
パレドパラドキシア梁川標本関連 資料18点	仙台市科学館	7月1日～ 8月31日	タイムスリップ！！絶滅ホニ ウ類ワールド～恐竜にかわる地 球の支配者たち～
福島市穴田遺跡出土猪形土製品1 点・三島町荒屋敷遺跡出土木製品 （斧柄）2点・トチの実20点・磨 製石斧復元品・森の写真パネル1 点	福島県文化財センター白 河館（まほろん）	6月18日～ 9月3日	ふくしま森林文化企画展「原始・ 古代の森と人との共生」
三貫地貝塚出土資料4点	大阪府立弥生文化博物館	7月3日～ 9月20日	特別展「MASK-仮面の考古学」
松平定信像	栃木県立博物館	9月23日～ 11月23日	改革と学問に生きた殿様－黒羽 藩主大関増業－
日新館教授之図（詞書・素読学習 図・礼法学習図・槍術稽古図）・ 沢田名垂和歌	若松城天守閣郷土博物館	10月10日～ 11月30日	秋期企画展「日新館」
阿弥陀寺関係資料17件28点	南相馬市博物館	10月27日～ 12月9日	特別展「鹿島の寺院展－指定文 化財を中心にして－」
大窪横穴墓群出土資料18点・真野 古墳群出土資料14点・黒木田遺跡 出土資料1点	南相馬市博物館	平成23年1月8日～ 3月6日	企画展「国史跡指定記念 古代 陸奥国・行方の郡家－国史跡・ 泉官衙遺跡－」
須賀川市跡見塚古墳出土ガラス 玉・管玉・切子玉・勾玉 8件 318点	須賀川市立博物館	平成23年1月25日～ 平成24年1月24日	常設展「須賀川の歴史」

(イ) 写真資料

写真資料貸出掲載許可件数85件
美術分野40枚、歴史分野58枚、考古分野41枚、
民俗分野2枚、自然分野6枚 計147枚

(4) 保 存

(ア) 防虫作業等

1. 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、
収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エント
ランスホール、体験学習室、講堂、事務室、
会議室、研究室、図書室、空調機械室など主

要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮カビ類、空中浮遊塵埃数、気相(アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度)及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認

するため、7月6日～23日、11月16日～12月10日の2回にわたり実施した。

2. 燻蒸庫による燻蒸

第1回(5月28日)～第3回(3月25日)まで、新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約416件の燻蒸を実施した。

3. 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間のテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。部門展示の歴史美術は常設展示の中ではギャラリー的な役割を受け持ち、年間7～8回のテーマを持ったミニ展示を開催している。

昨年度から始まったポイント展とテーマ展という制度が定着してきた。各分野がそれぞれ工夫した展示を展開し、おそらく外から見ても常設展のイメージが大きく変化したのではないだ

ろうか。この昨年度からの試みにより、常設展がよみがえってきた。常設展示内ではこれまでも展示替えが行われてきたし、そもそも資料を固定化しないで交代しながらというのは開館当初からの考えであったが、実際問題として時間の経過とともになかなかコンセプトどおりとはなっていなかった。こうした小さな展示を使うことにより、常設展をリフレッシュさせる効果が出た。また、考古分野は部門展示室を地元会津の各教育委員会と協力して展示しようとする試みを今年度より始め、第一回は会津若松市で開催した。地元との協力関係あつての展示であり、これも常設展を舞台にした新しい動きである。

(イ) テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が2年目である。全9回実施。「ふくしまの考古資料1 会津若松市遺跡探訪」展は会津若松市教育委員会との共催。

- ①「会津の茶の湯－会津本郷焼と会津漆器の名品－」（部門展示室歴史・美術）
平成22年4月17日(土)～5月30日(日)
- ②「ふるさとの考古資料1 会津若松市遺跡探訪」（部門展示室考古）会津若松市との共催
平成22年5月29日(土)～平成23年5月15日(日)
- ③「昭和のくらし－あの頃の家電製品－」（総合展示室近現代）
平成22年6月8日(火)～平成23年3月21日(月)
- ④「白虎隊の図像学」（部門展示室歴史・美術）
平成22年6月12日(土)～8月1日(日)
- ⑤「けんぱくの宝2010」（部門展示室歴史・美術）
平成22年8月7日(土)～9月12日(日)
- ⑥「相馬地域の干拓」（総合展示室自然と人間）
平成22年9月7日(火)～平成23年3月31日(木)
- ⑦「ふくしまの画人たち～遍歴の画人春日光親～」（部門展示室歴史・美術）
平成22年12月4日(土)～平成23年1月9日(日)
- ⑧「書に込めた心」（部門展示室歴史・美術 エントランスホール）
平成23年1月15日(土)～2月13日(日)
- ⑨「天神さま－絵巻物から郷土玩具まで－」（部門展示室歴史・美術）
平成23年2月26日(土)～4月17日(日)



テーマ展「昭和のくらし」



テーマ展「相馬地域の干拓」



テーマ展「ふくしまの画人たち～遍歴の画人春日光親～」



テーマ展
「ふるさとの考古資料1 会津若松市遺跡探訪」

(ウ) ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が2年目である。全19回実施。

- ①「笹山原遺跡群の旧石器」（総合展示室古代）
平成22年4月20日(火)～5月28日(金)

- ②「三角縁神獸鏡と会津の銅鏡」(総合展示室古代)
平成22年4月20日(火)～9月26日(日)
- ③「恵日寺絵図」(総合展示室古代)
平成22年4月22日(木)～5月26日(水)
- ④「腕足類ってなに？」(部門展示室自然)
平成22年4月24日(土)～6月4日(日)
- ⑤「化石でみるブナ林－落葉広葉樹帯の起源をさぐる－」(部門展示室自然)
平成22年7月6日(火)～9月5日(日)
- ⑥「風船爆弾の気球」(総合展示室近・現代)
平成22年7月7日(水)～9月14日(火)
- ⑦「落下傘でつくった着物」(部門展示室民俗)
平成22年7月22日(木)～8月22日(日)
- ⑧「沼沢出雲守家臣連判状一時を超えた主従の絆」(収蔵資料展示室)
平成22年9月2日(木)～9月26日(日)
- ⑨「相馬岡田文書－鎌倉武士の実像－」(総合展示室中世)
平成22年9月2日(木)～10月11日(月・祝)
- ⑩「桧原湖の埋没林－磐梯山の噴火で埋没した旧桧原村落周辺の樹林－」(総合展示室自然と人間)
- ⑪「死者を見守る顔」(総合展示室原始)
平成22年9月11日(土)～平成23年3月27日(日)
- ⑫「和同開珎」(総合展示室古代)
平成22年9月11日(土)～11月23日(火)
- ⑬「あの世に旅立つとき」(部門展示室民俗)
平成22年10月1日(金)～11月30日(金)
- ⑭「ふくしま教育のあゆみ－謄写版印刷の道具－」(部門展示室歴史・美術)
平成22年10月19日(金)～11月30日(火)
- ⑮「国会開設とふくしま」(総合展示室近・現代)
平成22年10月19日(火)～12月19日(日)
- ⑯「おばあちゃんの記憶－こたつ掛け」(部門展示室民俗)
平成22年12月1日(水)～平成23年1月30日(日)
- ⑰「塩沢上原 A 遺跡の石器」(総合展示室原始)
平成22年12月4日(土)～平成23年3月27日(日)
- ⑱「会津孝子伝」(総合展示室近世)
平成23年1月13日(木)～3月30日(水)
- ⑲「小さな雛まつり」(部門展示室民俗)
平成23年2月22日(火)～4月3日(日)



ポイント展「三角縁神獸鏡と会津の銅鏡」



ポイント展「風船爆弾の気球」



ポイント展「桧原湖の埋没林」



ポイント展「小さな雛まつり」

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が企画し、館のオリジナルなテーマに基づいた展示を2ヶ月程度の期間で年に数回開催している。平成22年度は3回の企画展を実施した。

ア) 春の企画展

「千少庵と蒲生氏郷」

1. 会期 平成22年4月17日(土)～5月30日(日)
2. 会場 企画展示室
3. 主催 福島県立博物館 茶道資料館
特別協力：(財)表千家不審菴・
(財)裏千家今日庵
協力：(社)茶道裏千家淡交会会津支部・
表千家同門会福島県支部会津方部
4. 入館者数 7,578人
5. 担当学芸員 美術分野：小林めぐみ
歴史分野：高橋 充
6. 趣旨

天正19年(1591)2月28日、豊臣秀吉の怒りを受けて千利休が賜死。それによって、千家は存続の危機を迎えた。利休の二人の息子のうち、道安は飛騨や阿波などに身を潜め、少庵は蒲生氏郷のもとへ預けられた。会津の大名・蒲生氏郷は利休七哲の一人で利休流の茶法に通じており、少庵を保護し、徳川家康と秀吉へのとりなしに尽力したとされる。京都に戻った少庵は、権力と一定の距離を持ってわび茶人に徹し、利休の茶の湯を忠実に継承していった。それはまた、その子・宗旦へと受け継がれ、現在に続く千家茶道の礎となっている。

本展示会は、利休の茶の精神やそれを受け継いだ千少庵と蒲生氏郷の茶の湯をゆかりの品から紹介するとともに、会津を治めた蒲生氏郷と同時代の武将たちの足跡を紹介した。

7. 展示構成

- 第1部 「利休の茶の湯の継承者」
- 第2部 「桜花とともに散った氏郷の生涯」

8. 関連行事

- ① 講演会「千家の再考—少庵と氏郷—」
講師 茶道資料館副館長 筒井紘一氏
日時 5月1日(土) 13時30分～15時
- ② 展示室講座第1回「氏郷の生涯—『蒲生記』

を読む1」

- 講師 当館学芸員 高橋 充
日時 4月17日(土) 13時30分～15時
- ③ 展示室講座第2回「会津の茶の湯」
講師 当館学芸員 小林めぐみ
日時 4月29日(木) 13時30分～15時
 - ④ 展示室講座第3回「氏郷以降の蒲生家—『蒲生記』を読む2」
講師 当館学芸員 高橋 充
日時 5月8日(土) 13時30分～15時
 - ⑤ 展示室講座第4回「茶の湯にみるやきもの」
講師 茶道資料館学芸員 降矢哲男氏
日時 5月30日(土) 13時30分～15時
 - ⑥ 展示解説会
講師 当館学芸員 小林めぐみ・高橋 充
日時 4月25日(日) 15時30分～16時30分
5月3日(月) 13時30分～14時30分
 - ⑦ まちなか茶会第1回 野口英世青春通りおもてなし茶会
講師 福島県立会津工業高校生・教諭他
日時 5月8日(土) 13時30分～15時30分
会場 紀州屋「1934」
(会津若松市野口英世青春通り)
 - ⑧ まちなか茶会第2回 野口英世青春通りおもてなしトーク
講師 きむらとしろうじんじん氏
(陶芸家・美術家)
佐藤正道氏
(郡山北工業高校・元会津工業高校教諭)
日時 5月23日(月) 13時30分～16時
会場 紀州屋「1934」
(会津若松市野口英世青春通り)
 - ⑨ 御薬園茶懐石講座 江戸時代後期の会津の茶会記から
講師 平出美穂子氏(伝統料理研究家)
小林めぐみ(当館学芸員)
日時 5月9日(日) 11時～14時
会場 御薬園
 - ⑩ 「アクアマリンふくしま潮風アート茶会」
日時 5月16日(日) 11時～15時
会場 アクアマリンふくしま(いわき市)



「千少庵と蒲生氏郷」リーフレット



展示室講座「会津の茶の湯」



展示室講座「氏郷の生涯」



「千少庵と蒲生氏郷」展示解説会



御薬園での茶懐石講座



講演会「千家の再興」

(イ) 夏の企画展「森に生き山に遊ぶ！ーふくしまの森林文化ー」

1. 会 期 平成22年6月26日(土)～8月22日(日)
2. 会 場 企画展示室（無料：森林環境税により開催するため）
2. 入館者数 12,588人
4. 担当学芸員 民俗分野：榎 陽介
自然分野：小澤義春
5. 趣 旨

森林環境税による展覧会で、県内の5つの文化施設（福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して開催した。この展覧会は福島県内の森について考え、思いをめぐらしてみようとするものである。まず、森はどのように分布し、どんな樹木が生えているか、という基本的な情報からはじめ、次に、この森でどんなくらしが営まれていたかということに目を移す。山の木を切り倒して材木として出荷するだけが仕事ではない。木地師の手により椀や盆、シャクシやヘラといった道具が作られた。山菜や茸といった山の幸も森がもたらしてくれるものだ。ゼンマイはすてるはずの綿を弾力があるので手毬の芯に使った。くらしは時代と場所により色々な展開をするものだが、その一部を紹介した。また、くらしの中の楽しみとしての「芝居」についても紹介した。

6. 展示構成

I ふくしまの森林

トチの木や桐の木の大きな丸太をはじめ、県内市町村の木を使ったパズル、森林分布図、木材サンプルなどなど、森林の基礎知識はここで。

II 森のくらし

一本の木から彫りだされた仏像。樹木の霊が仏様の姿となって…。木地師、炭焼き、コバ削り、シャモジ作りなどの色々な仕事。麻の栽培と歌舞伎の世界。奥会津歌舞伎の分布図。そして、ゼンマイの綿のワンピースとカラムシのワンピース。

III 森林環境を学ぶ

森林環境学習の成果を30を越える会津地域の小学校が発表した。

7. 関連行事

- ①「オープニングセレモニー」
出席者 福島県知事、参加5館館長他
日時 6月26日(土) 9時30分～10時
会場 博物館エントランスホール
- ②「オープニングトーク 森林から未来へ」

出席者 参加5館館長

日時 10時30分～12時

会場 博物館講堂

- ③「記念トーク 明日を素敵に生きるには」
講師 福島県しゃくなげ大使 安藤和津氏

日時 13時～14時30分

会場 博物館講堂

- ④アクアマリン移動水族館

日時 6月26日(土) 11時～

- ⑤樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」

福島県植物研究会会員・会津生物同好会会員 蓮沼憲二氏

日時 7月11日(土) 10時～12時

場所 鶴ヶ城

- ⑥対談「山の技術と資源の活用ー吉野と熊野のフィールドからー」

講師 東北学院大学講師 加藤幸治氏
奈良県教育委員会 森本仙介氏

日時 7月17日(土) 13時30分～15時

会場 博物館講堂

- ⑦講演「森は動いているー樹木の長い一生を科学するー」

講師 東北大学大学院生命科学研究科教授 中静 透氏

日時 7月18日(日) 13時30分～15時

会場 博物館講堂

- ⑧対談「会津の森を語りあかそう」

講師 山口大学教授 湯川洋司氏
当館専門員 佐々木長生

日時 8月1日(日) 13時30分～15時

会場 博物館講堂

- ⑨実演「いろいろ実演いろいろ体験 手挽きろくろ」

講師 木地師 紀 治男氏
木地師研究家 金井 晃氏
協力 奥会津博物館

日時 8月8日(日) 11時～15時

8. 成果と課題

上に記したようにこの展覧会は福島県が独自に課税している森林環境税を使ったもので、展覧会企画の主体は県庁の森林計画課にあった。ここが実行委員会を組織し、各施設が実際の展示作業を行った。森林文化企画展と銘打ったが、そもそも実行委員会から「森林文化」についての具体的な構想などは提示されず、実際のところは参加各館の担当者のプランをそれぞれで実施するというものであった。当館は2人が担当し、それぞれの分野の資料を中心に展示することになった。森林計画課が予算を実行委員会に流し、実行委員

会が当館を除いた4施設に展示を委託するという形をとり、当館は県の直営であるため、業務の委託をうけた超学際的研究機構が実際の経費の支払いをするという変則的な形態となり、当館に直接予算は流れてこなかった。展示の構成は3部に分かれていて、第1部は自然分野の学芸員が、第2部は民俗分野の学芸員が、第3部は各施設共通で、超学際的研究機構の提供するパネル展示となった。展覧会は無料だったこと、人数のカウントが赤外線カウンターを利用したことなどで予想より多くなった（赤外線カウンターの性質上実際の数よりも多くカウントしがちだった）。展示図録は5館共通のものを作成し、関係者に無償配布し、県庁のウェブサイト上にpdfファイルを公開し自由にダウンロードできるようにした。

当館では南会津町と只見町がそれぞれ所蔵する国指定有形民俗文化財を大量に展示できたこと、ならびに南会津町の旧南郷村や旧伊南村にあった歌舞伎衣装を公開するに際し奥会津博物館と連携することができたことは大きかった。またこの展覧会で展示するため県内各市町村の木を市町村の形に切り抜いたジグソーパズルを作成したが、これは以降も使用可能な体験用具となった。



「森に生き山に遊ぶ！」リーフレット



「森に生き山に遊ぶ！」展示解説会



「森に生き山に遊ぶ！」展示風景



樹木観察会



記念講演会「森は動いている」

(ウ) 秋の企画展

「漆のチカラ」

1. 会期 平成22年10月9日(土)～11月28日(日)
2. 会場 企画展示室
3. 入館者数 4,013人
4. 担当学芸員 美術分野：小林めぐみ
5. 趣旨

会津地方での漆の利用は縄文時代に始まり、各時代を通じてさまざまな形で用いられてきた。江戸時代から始まる産業としての漆器生産は現在の会津の漆器産業へとつながり、漆器は会津の代表的伝統工芸品として広く認識されている。本展では、縄文時代から現代に至るまで連綿と続く会津と漆の関係を振り返りながら、漆文化の奥深さを紹介するとともに、現在活躍する漆を素材として用いている作家の作品から、これからの漆表現の可能性を探った。

6. 関連行事

①アーティストトーク

講師 藤田敏彰氏(漆造形家)、松島さくら子氏(漆造形家)、中島靖高氏(現代美術家)、保井智貴氏(現代美術家)

日時 10月9日(土) 13時30分～15時

②第2回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡～漆とものづくり文化～「フィールドワーク」

講師 森 幸彦(当館学芸員)、小松順太郎氏(三島町文化財専門委員)、五十嵐文吾氏(伝統工芸士)、二瓶新永氏(伝統工芸士)

日時 10月29日(金) 13時～

会場 道の駅みしま宿ビューポイント展望台→荒屋敷遺跡発掘箇所→大登地区

③第2回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡～漆とものづくり文化～「座学」

講師 四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館長)、赤坂憲雄(当館館長)、森 幸彦(当館学芸員)

日時 11月23日(月)祝 13時30分～15時

会場 三島町交流センター山びこ

④講演会「漆の文化史—9000年の時を超えて」

講師 四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館長)

日時 10月31日(日) 13時30分～15時

⑤「The Voice of (漆)」リーディングパフォーマンス

講師 吉増剛造氏(詩人)

日時 11月2日(火) 16時30分～

会場 アルテマイスター保志(会津若松市本町)

⑥新作Ciné初公開「The Voice of (漆) —会津にて」

講師 吉増剛造氏(詩人)

日時 11月3日(水) 13時30分～

会場 アルテマイスター保志(会津若松市本町)

⑦ギャラリートーク

講師 小林めぐみ・大竹正浩(当館学芸員)

日時 11月7日(日) 13時30分～14時30分

⑧ワークショップ「漆絵でmy箸を作ろう」

講師 めしもり山工房

日時 11月13日(土) 13時30分～15時

11月14日(日) 10時30分～12時



「漆のチカラ」リーフレット



「漆のチカラ」 展示風景 1



漆の楽器コンサート



「漆のチカラ」 展示風景 2



「漆のチカラ」 展示解説会



シンポジウム「会津・漆・アート」

(3) 特集展

(ア) 冬の特集展（まほろん移動展）「ふくしまの土偶」

1. 会 期 平成22年12月7日(火)～平成23年1月30日(日)
2. 会 場 企画展示室
3. 入館者数 1,804人
4. 担当学芸員 考古分野：森 幸彦
5. 趣 旨

まほろん（福島県文化財センター白河館）の企画展の移動開催展示で、これを特集展に位置付けた。土偶は縄文時代早期から数千年にわたって作られ続けた、粘土を素材にした“ひとがた”である。妊娠した女性を表現しており、生命の再生を願って作られたものと考えられる。県内出土土偶を網羅し、264点を展示した。

6. 展示構成

目玉は、昨年大英博物館において開催された [The Power of DOGU] に出品された福島市上岡遺跡の「うずくまる土偶」、郡山市荒小路遺跡の「ハート形土偶」、三島町小和瀬遺跡出土の「結髪土偶」および三春町西方前遺跡の「結髪土偶」などで、これらを中央独立配ケースに展示した。

I 里帰りした土偶

まほろんでは「里帰り展」と称して、東京大学総合研究博物館所蔵の県内出土資料17点を展示したが、同博物館の規程で2館連続貸出が認められないことから、当館では東北大学文学研究科所蔵の会津坂下町竈原遺跡出土土偶を展示した。

II 縄文早期・前期の土偶

県内最古の土偶である南相馬市荻原遺跡、広野町上田郷VI遺跡資料を中心に、前期までの平板な形を特徴とする土偶で構成した。

Ⅲ 縄文中期の土偶

足が付き、立体自立型になる特徴がある「カップ形土偶」と呼ばれる頭部が扁平になる特徴をもつ一群（柳津町石生前遺跡、郡山市曲木沢遺跡など）と中期末の「背面人体文土偶」を中心に構成した。

Ⅳ 縄文後期の土偶 1

三春町柴原A遺跡、郡山市荒小路遺跡の「ハート形土偶」を中心に構成し、群馬県郷原遺跡の「ハート形土偶」のルーツが福島県域にあることを示した。

Ⅴ 縄文後期の土偶 2

福島市上岡遺跡の「うずくまる土偶」を中心に、その類似資料が東北北半に多いことを示し、土偶が多様化する傾向も示した。

Ⅵ 縄文晩期の土偶

いわゆる「遮光器土偶」の系統に属する資料が福島県にも分布することを示し、三春町西方前遺跡、三島町荒屋敷遺跡、小和瀬遺跡の土偶など縄文時代最終末の秀品を紹介した。また、晩期には土偶の他に土版と呼ばれる扁平な粘土板に顔が表現されたものも出現することを紹介した。

7. 関連行事

① 「土偶のはなし」

講師 前弘前大学人文学部教授
藤沼邦彦氏

日時 平成23年1月16日(土) 13時30分～15時

② 展示解説会

講師 当館学芸員 森 幸彦

日時 平成23年1月16日(土) 15時10分～16時30分

7. 成果と課題

専門職員が多いからか、まほろんの展示では解説が難解であったため、当館の展示においては解説内容を平易にしてパネルを全て作り直した。漆の芸術祭参加作家であるハトさんの作品「うるしのこぼしさん」を応用して「こぼし博士」が解説するスタイルをとり、「こぼしさん」たちが各土偶の特徴を指摘して注意を喚起するように工夫した。観覧者からは「親しみやすかった」「わかりやすかった」「たのしく見ることができた」など多くの好感の声が寄せられた。

この土偶展の元々の創案は、昨年亡くなられた藤本強まほろん館長であり、鎮魂の意味を込めてこれを全うできたことは、関係者一同胸をなで下ろすところであった。準備においては、企画展「漆のチカラ」終了後から開

幕まで1週間しかなく、慌ただしい状況であったが、借用、展示等の作業をまほろん職員と共にできたことは相互に有益であった。今後も連携を深めていきたい。

展示資料返却は事後遅滞なく進めることができたが、東日本大震災に伴う原発事故により、展示した資料のいくつかが当該市町村で事故以降放置され、放射性物質に汚染されている状況には無念の思いを抱かざるを得ない。



「ふくしまの土偶」リーフレット



「ふくしまの土偶」展示風景



「ふくしまの土偶」展示解説会



記念講演会「土偶のはなし」

(イ) 春の特集展「永山亘コレクション展 ―集め続けて30年、資料が語る炭鉱（ヤマ）のくらし―」

主催：福島県立博物館

協力：常磐炭田史研究会

1. 会 期 平成23年3月5日(土)～5月15日(日)
2. 会 場 企画展示室（常設展料金）
3. 入館者数 5,762人
(会期中の常設展入館者数)
4. 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎
5. 趣 旨

いわき市在住の永山亘氏は、昭和51年に常磐炭礦(株)が閉山するまで、約30年にわたり炭鉱で事務職として働いていた。その間、炭鉱関係の資料を集め続けた。このたび永山氏から300件におよぶ常磐炭田の資料が当館に寄贈された。収集資料は、採炭道具、坑内の安全機器、専用鉄道の器具、炭鉱住宅での用具類など多岐にわたり、今ではほとんど手に入らないものばかりである。この展示会を通して、常磐炭田の採炭技術、および炭鉱に生き

た人々の生活を中心に紹介し、戦後、日本の経済復興に常磐炭田が果たした役割や、一山一家といわれた炭鉱社会の特徴について考える機会とした。

6. 展示構成

プロローグ 常磐炭田の歴史

I ヤマの仕事

II ヤマのくらし

III ヤマの終わり

エピローグ 産業遺跡を歩く

(ヘリテージツーリズム)

7. 展示資料

①永山亘氏寄贈常磐炭田関係資料 約200点

②永山亘氏撮影常磐炭田関係写真

③常磐炭田産業遺跡写真

④石炭・化石標本

計約300点

8. 関連行事

展示解説会

講師 常磐炭田史研究会 野木和夫氏、いわきヘリテージ・ツーリズム協議会 熊沢幹夫氏

日時 平成23年4月30日(土)13時30分～14時30分

9. 成果と課題

- 資料寄贈からあまり時を経ずコレクションの展示会を開催することができた。
- ひとりの人間がこれだけのコレクションを集めたことに感心する観覧者が多かった。その意味で永山氏本人にスポットをあてたコーナーを設けるとより面白い展示ができたと思う。
- 永山氏のコレクションのほかに、最後に写真パネルで炭鉱遺跡を紹介したことは、かつての炭鉱をイメージできたせいも概ね好評であった。
- 大人、特に浜通りから来た観覧者が関心を示し、多くが面白かったと感想を述べていた。
- それに対して子供はあまり関心を示さなかった。子供にも興味を持たせる工夫が必要である。



「永山巨コレクション展」リーフレット



「永山巨コレクション展」展示風景



「永山巨コレクション展」展示解説会

(4) 移動展

県立博物館の展示を見たくても「会津若松市は遠すぎて」という県民の声がしばしば聞かれる。また、当館で実施した企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多い。このような意見に応えるべく、当館では県内の博物館相当施設で

の展示会を開催している。また、県内の市町村に積極的に利用してもらおうと移動展のパッケージプラン（別表）を用意し、公募を受け付けている。

今年度の移動展は1回実施し、パッケージプランの利用はなかった。

移動展パッケージプラン一覧

No.	分野	規模	タイトル	期間	資料点数	概要
1	考古	A	福島県立博物館所蔵 県指定考古資料展	1～2ヶ月	30～40点	県指定品である優品の紹介
2	考古	B	三貫地貝塚展	1～6ヶ月	約40点	新地町にある縄文時代貝塚の特集
3	考古	B～C	さわってみよう、 縄文人・古代人のどうぐ・うつわ・かざり	1～6ヶ月	約41点	ハンズオン＋実物資料 原始・古代を実感
4	自然	A	謎の海獣 パレオパラドキシア	協議	約60点	梁川町発掘の1600万年 前の化石
5	自然	B～C	見る・さわる 世界の化石	協議	約670点から選択	ハンズオン 生物の歴史と化石の楽しさを提供
6	美術	A	けんぱくの宝	協議	約15点	一級の美術工芸品
7	美術	B	近くで見よう ハンズオン対応資料展	協議	約20点	ハンズオン ふれて学 ぶ美術品
8	民俗	B～C	東北の仕事着	1～2ヶ月	約1200点から選択	コレクション資料 体験講座も可

No.	分野	規模	タイトル	期間	資料点数	概要
9	民俗	A～B	郷土玩具	1～2ヶ月	約1900点から選択	コレクション資料 県内各地の郷土玩具
10	民俗	B～C	ふくしまの火伏せ	1～2ヶ月	3セット	安達(中)・三島(会)・ 鹿島(浜)の火伏せとは
11	民俗	B～C	東日本のわら人形	1～2ヶ月	約20点	関東以北、村を守る想 いとは
12	歴史	B	お金の歴史	2ヶ月程度	約250点	お金の歴史をわかりや すく
13	分野横断	A	県立博物館移動展 はま・なか・あいつの名品	1～2ヶ月	約280点	けんぱくの所蔵する各 地の名品が大集合
14	分野横断	A	博物館がやってきた!! —県立博物館収蔵庫のヒ・ミ・ツ—	1～2ヶ月	約280点	普段は入れないけんぱ く収蔵庫のヒミツとは
15	分野横断	A	未来へ伝える 県立博物館の宝展	1～2ヶ月	約50点	考古・美術の一級資料 をご紹介します
16	分野横断	A	さわって感じる 化石・古代・美しさ展	1～2ヶ月	約730点から選択	大ハンズオン展、ふれ て感じる展覧会です

※規模欄の記号は以下を表します。なお、この表示はおおよその目安であり、出品資料の詳細は担当学芸員と相談のうえ決定します。

A：広いフロア・多くの展示設備を必要とし、美専車での輸送が必要な大規模プラン。展示室内か入口に監視員要。

B：美専車不要の資料、未指定品で構成する中規模プラン。一定のフロア、展示設備が要。展示室内か入口に監視員要。

C：美専車不要の資料、未指定品で構成する小規模プラン。展示室入口に監視員か資料保全の囚れる展示ケース等が必要。

内容の詳細は、当館HP <http://www.general-museum.fks.ed.jp/> をご覧ください。

移動展 出品可能個別資料一覧

No.	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
1	民俗	渡部つとむコレクション	約1200点	無	不要	相談	寄託資料：仕事着・子供祝着など 寄託資料
2	民俗	大竹コレクション	約1500点	無	不要	相談	こけし、郷土玩具など
3	民俗	東日本のわら人形	約20体	無	※要	可	企画展「境の神・風の神」で製作したもの。美専ではなくとも業者による輸送が必要
4	民俗	会津の雪の装い	約10点	無	不要	可	ハンズオン：カンジキ各種、菅笠、ゲンベエ、雪踏み俵、蓑など
5	民俗	オカマサマ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。旧安達町：屋根裏に下げていたセット。男性、女性、牛蒡、鯉節、干し柿、鶴、亀など
6	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。三島町名入地区：男性、女性 製作時の写真
7	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	南相馬市鹿島区：蛇、牛蒡、魚
8	民俗	皮箕	2	無	不要	可	サワグルミ製 三島町他
9	民俗	オリッカ	3	無	不要	可	サワグルミ製 会津美里町
10	民俗	苧引き鉄	3	無	不要	可	
11	民俗	苧引き用舟	3	無	不要	可	くり抜き
12	民俗	麻糸	1袋	無	不要	可	

No.	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
13	民俗	糸車	2	無	不要	可	麻糸よりかけ用
14	民俗	地機	1	無	不要	可	糸がかけてある
15	民俗	鯉鉢	3	無	不要	可	本郷焼
16	民俗	切立	3	無	不要	相談	本郷焼 一部寄託資料も
17	考古	三貫地貝塚出土縄文土器(複製)	10	無	不要	可	ハンズオン
18	考古	平安時代土器(複製)	10	無	不要	可	ハンズオン
19	考古	首飾り(複製)	1	無	不要	可	ハンズオン
20	考古	古墳時代鏡(複製)	1	無	不要	可	ハンズオン
21	考古	大窪横穴須恵器類	10	無	不要	可	
22	考古	勿来金冠塚古墳出土青	1式	無	不要	不可	
23	考古	勿来金冠塚古墳青(複製)	1	無	不要	可	ハンズオン
24	歴史	いわき地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
25	歴史	相双地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
26	歴史	県南地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
27	歴史	県中地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
28	歴史	県北地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
29	歴史	南会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度
30	歴史	北会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度

(ア) 「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代」展

1. 会期 平成22年4月21日(水)～8月31日(火)
2. 会場 いわき市考古資料館
3. 入場者数 5,320人
4. 担当学芸員 考古分野：横須賀倫達・田中 敏・森 幸彦・大竹正浩
5. 趣旨

金冠塚古墳は昭和25・28年に発掘調査され、貴重な品々が出土したことで著名な古墳である。今回は福島県立博物館所蔵の資料を57年ぶりにいわきに里帰りさせる。また同時にいわき市考古資料館の所蔵する勿来地区の資料を展示し、勿来地区の飛鳥時代を探る。

6. 展示資料

当館所蔵品：勿来金冠塚古墳出土品
 いわき市所蔵品：後田古墳陶棺・館山横穴出土品・応時遺跡出土品など
 ※出品資料の割合は、3(当館)：7(いわき市考古資料館)

7. 関連行事

- ①講演会「金冠塚古墳と勿来地区の古墳時代」
 講師：当館学芸員 横須賀倫達
 日時 平成22年4月25日(日)13時30分～15時30分
 参加者 48人
- ②展示解説会
 講師 いわき市考古資料館館長 榎村友延氏

日時 平成22年4月25日(日) 15時30分～16時

8. 成果と展望

- ①他館と共催することによって、広報機会の増加が図れた。
- ②地理的に離れた浜通り地方において、当館のPRの機会となった。
- ③アンケートの結果、来館者が「移動展」はもとより「博物館」や「展覧会」へニーズを持つことが分かった。
- ④アンケートの結果、地元の歴史には世代を超えた興味のあることが確認できた。
- ⑤会津若松市への来館が困難な地域の人々の来場があった。
- ⑥移動展・共催展は、限定された地域の文化や歴史について県立の当館がアプローチする機会ともなりうる。効果は限定的で話題性や多数の来場者を望むようなイベントにはなりえないが、方法によっては個々人に大きなインパクトを、それなりの労力と予算で与えることができる機会である。
- ⑦小さな事でも学芸員の研究成果を持ち出すような機会となる。形にこだわらず積極的なアプローチを行っていくことが望まれる。



「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代」展示風景

(5) 展示解説

(ア) 展示解説員

平成22年度の展示解説員は13名と前年度に比べて3名減員となり、臨時職員の展示解説員が1名加わり（今年度のみの特例）合計14名となった。展示室の監視業務が手薄になることに対応して展示監視員2名分の委託料が予算化された。これにともない、企画展開催期間には、展示解説員が立つポイントが増えるため、解説員では展示室を監視しきれない場合が多数あり、学芸員が交代で展示室に立つ、「立番」が多くなった。ただし、平成22年度の展覧会では、夏の企画展と秋の企画展で警備員委託の予算がついた。これは当館単独の予算ではなく、社会教育課からの予算、財団からの助成など、外部もしくはそれに準じたような予算をうけ、規模も大きくできたためである。

このような困難の中、通常の来館者の対応のほかに、次の解説業務を実施している。

1. やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催することになっている。1回の所要時間は約30分。

実施状況

開催日数：80日 実施日数：50日

開催回数：158回 実施回数：62回

総参加人数：198人

1日当たりの人数：2.48人

1回当たりの人数：1.25人

2. 通し解説

非定期的常設展・企画展の解説。来館の個人・団体の要望に応じ展示解説員が全体を解説。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、主として予約の団体の要望にこたえる形で実施してきている。

実施回数：19回

3. 部屋送り解説

非定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。
実施回数：205回

(イ) 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に立つポストが増えることになり、解説員だけではお昼休みに対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。22年度は年間で170回を数えた。これは、夏の企画展が無料開催で、しかも監視の警備員が配置されていたこともあり、必要がなかったことや秋の企画展も監視の人員が配置されていたので、そのために少なくともすんだという側面もあった。

(ウ) 展示解説のための印刷物

① 福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106p.

② 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28p.

③ Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館



博物館見学のしおり

者に無償配布。平成18年発行。14p.

④博物館見学のしおり（小・中学生用）

自由記述形式のワークシート「博物館を探検しよう！」（4p.）。常設展示を見学して書き込みながら学べるように構成されている。展示資料をよく観察することによって様々な考え方・まとめ方ができる内容になっている。小・中学生の個人および団体来館者に無償配布している。

(6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。



体験学習室

(ア) 衣装

1. 衣装着付け

- ①衣装着付け件数 891件
 - ②着付けた衣装 春：半袴、打掛 夏：水干（子供用）、直垂 秋：推古朝の男子、天武朝の女子 冬：山伏、白拍子
- 衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多かか

るし、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

2. 衣装展示

春：大鎧 夏：古墳男子、小袖 秋：武士旅姿、壺装束 冬：大鎧

(イ) 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

- 7月 七夕飾り 12月 クリスマスツリー
- 1月 団子さし 3月 手作り雛人形



手作り雛人形

(ウ) おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：123件

(エ) ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取ったり使用法を体験できるコーナー

- ①平成22年4月～平成22年9月「米俵を持ってみよう」（歴史分野）
- ②平成22年10月～平成23年4月「古生代の海に2億5000万年間生息した節足動物－三葉虫の形態と生態－」「福島県地図パズルに挑戦！」併設（自然分野）

「古生代の海に2億5000万年間生息した節足動物－三葉虫の形態と生態－」展示資料一覧

No.	資料名	学名	地質時代	点数	産地
1	アサファス ラニセプス	<i>Asaphus raniceps</i>	オルドビス紀	1	ロシア
2	カイノプス	<i>Kainops</i> sp.	デボン紀	1	アメリカ合衆国
3	ダクティナ ベトナムイカ	<i>Ductina vietnamica</i>	デボン紀	3	中国
4	ネオメタカンサス	<i>Neometacanthus</i> sp.	デボン紀	2	モロッコ
5	ファコプス	<i>Phacops</i> sp.	デボン紀	2	モロッコ



米俵を持ってみよう



古生代の海に2億5000万年間生息した節足動物



福島県地図パズルに挑戦！

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。

(ア) 考古資料の材質・製作技法に関する研究

1. 趣旨

出土した状態の考古資料は、そのままでは当時の姿を理解することが難しい。また、製作技術の分析にはその材質や技術的な特徴を把握することが必要である。本研究では展示資料を復元するためのバックデータ収集、および資料から導き出される歴史的意義について明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

平成22年度は、県内古墳出土考古資料のうち以下の調査研究を行った。

①喜多方市山崎横穴古墳群出土金属製品 (6世紀後葉－7世紀前葉)

喜多方市教育委員会より資料を借用し、実測、写真撮影等の整理作業、及び構造、製作技術等の調査、検討を実施した。本調査は平成20年度より3年間実施し、今年度

は鉄刀、鉄鏃等について実施した。3年間にわたる調査研究の成果については平成22年度発行の当館紀要(25号)に発表した。

主な成果の内容としては、会津地方では唯一の出土例である古墳時代の小札甲の構造を明らかにしえた。本小札甲は、数種類の鉄製小札を革紐により編んだものであり、構造から6世紀後葉の特徴をもつものである。

②双葉町清戸迫横穴群出土金属製品 (6世紀末葉－7世紀初頭)

今年度から開始。双葉町から資料を借用し、実測、X線透過撮影等の整理作業及び、蛍光X線分析などをはじめとした構造、製作技術等の調査、検討を実施した。

主な成果としては、頭椎大刀について、鉄製柄頭部分、および鏝の耳部分より銀象嵌による文様を検出しえたこと、小札甲について数種類の鉄製小札(一部革製小札を用いた可能性もある)を革紐により編んだものであり、6世紀末－7世紀初頭の特徴をもつことを明らかにしたことが挙げられる。

③双葉町沼の沢古墳群出土金属製品

(6世紀末葉～7世紀初頭)

今年度から開始。双葉町から資料を借用し、実測、X線透過撮影等の整理作業及び、蛍光X線分析などをはじめとした構造、製作技術等の調査、検討を実施した。

主な成果としては、鉛製品と報告されていた環状製品が錫製であることが確認できたことが挙げられる。古墳時代後期末～終末期にかけての錫製品は、大陸から北海道、北東北経由でもたらされたとの説があり、注目される。

(イ) 展示室における効果的な歴史理解に資する歴史資料の研究

1. 趣旨

(内容)

この調査研究は、県内外の観覧者が、展示室において効果的に福島県の歴史に関する理解を深めることができるように、各時代のさまざまな様相を象徴的に示すことができる実物資料について、歴史事象を多角的にとらえることができるような周辺資料も含めて、調査研究することを目的とする。その成果は、当館の常設展示の展示替えにおける歴史関係展示資料の候補や複製資料を製作する候補を選定する際に活用する。

(対象)

- ①古代資料：本県に関わる出土文字資料
地名(郡郷名)や人名・寺社名・歌語が記載されている典籍
- ②中世資料：国家の変動と本県の武士の動向がわかる歴史資料
(蘆名氏関係資料・伊達氏関係資料・蒲生氏関係資料)
- ③近世資料：幕藩制下における支配形態と民衆の動向がわかる歴史資料
(県内諸大名関係資料・幕府代官関係資料)
- ④近・現代資料：国家の動向と本県の役割がわかる歴史資料
(戊辰戦争関係資料・自由民権関係資料)

2. 調査概要

- ①古代 福島県関係の地名、人名、社寺名が見られる古代史資料(典籍、古辞書など)の所在調査および写真複製作成候補の選定。とくに恵日寺関係資料の調査。
- ②中世 福島県ゆかりの武将関係資料および絵図類の所在調査、特に新規の県外所在資料の情報収集および所在確認と調査。
- ③近世 福島県ゆかりの大名関係資料や地方関係資料の新規所在確認と調査。古文書資

料の製作道具など成立に関わる資料の所在調査。戊辰戦争に至る幕末資料の所在調査。

- ④近代 世界的、全国的に著名になった福島県出身者の動向を示す資料情報の収集と資料調査。明治維新期の県内の行政文書など政治史関係資料や県内の教育史資料の所在調査。西南戦争から第二次世界大戦にかかる県内の戦争関係資料の所在調査。
- ⑤現代 戦後復興期の資料所在調査。日本の高度経済成長期の資料所在調査。
- ⑥その他 資料所在情報調査にあたっては、各時代の担当者が主体性をもってあたるが、資料調査にあたっては、調査先の資料所蔵状況に応じて、相互に協力して調査を推進する。

3. 成果の公表

調査研究の成果は、テーマ展とポイント展の展示の中で公表した。

テーマ展「昭和のくらしーあの頃の家電製品ー」

平成22年6月8日(火)～平成23年5月15日(日)
テーマ展「書に込めた心」

平成23年1月15日(土)～2月13日(日)

テーマ展「天神さまー絵巻物から郷土玩具までー」

平成23年2月26日(土)～4月17日(日)

ポイント展「恵日寺絵図」

平成22年4月22日(木)～5月26日(水)

ポイント展「風船爆弾の気球」

平成22年7月7日(水)～9月14日(火)

ポイント展「相馬岡田文書ー鎌倉武士の実像ー」

平成22年9月2日(木)～10月11日(月)祝

ポイント展「福島教育のあゆみー謄写版印刷の道具ー」

平成22年10月19日(火)～11月30日(火)

ポイント展「国会開設とふくしま」

平成22年10月19日(火)～12月19日(日)

ポイント展「会津孝子伝」

平成23年1月13日(木)～3月30日(水)

(ウ) 福島県における衣生活文化の研究

1. 趣旨

福島県内の衣類とその周辺で展開してきた習俗を記録、整理し明らかにしようとするものである。麻やカラムシの栽培もおこなわれており、現在もカラムシ栽培はユネスコの無形遺産の表に登録された越後上布を原材料として支えており、県内のみにとどまるものではない。また、シナもしくはマダなどとよばれる樹皮繊維の利用などもある。一方衣類を

仕立てる習俗についても調査する余地はまだまだ残されている。

2. 調査概要

平成21年に寄贈されたワンピースはゼンマイの綿を使ったものであり、その製作の経緯を聞き書きし、平成22年度夏の企画展で展示することができた。県内でもかつてはゼンマイの綿を利用することがあったが、現在聞くことができるのは手毬の芯などに限られている。また、第二次世界大戦後に会津田島から柳津の虚空蔵尊に一泊二日でお参りに行った女性がそのときに着ていた着物と羽織の寄贈もあった。母親が繭から糸をとって織りあげたもので、寄贈にともないその女性が裁縫の私塾に通った後に仕立ての仕事につく過程や巡回して注文をとる呉服屋などについての話も聞いた。このように、私的な事象を堆積させることを当面続けることになる。

(エ) 福島県域の大名文化に関する研究

1. 趣旨

戦国時代末から江戸時代にかけて、福島県域には多くの領主、大名の支配地が存在した。本研究では、関連諸大名を取り巻く文化の様相を、大名自身の作品、彼らが養成した学者、画家、工人らの資料、学問に関わる資料を通して明らかにする。さらに、調査活動を通して発見される周辺諸資料にも配慮する。

2. 調査概要

郡山市個人、福島市、いわき市個人宅で行った書画・工芸品の調査に基づき、歴史美術テーマ展示「春日光親」を開催した。

(オ) 恐竜時代のふくしまに関する研究

1. 趣旨

本県に分布する中生代のジュラ紀～白亜紀の地層は、本県の大地の基盤をなす重要な位置を占めている。特に最近、本県浜通りに分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、恐竜をはじめとする脊椎動物、植物化石など、重要な化石の発見が相次ぎ、これらをもとに、地史や古環境を再考することが必要となってきている。本研究では、本県中生代の岩石・化石資料を収集し、調査を進め、東アジア全体の形成史を背景としながら、当時の生物相および古環境がどのようなものであったかを明らかにする。調査にあたっては、大学等の研究機関はもちろんのこと、地域の研究団体との共同研究・情報交換を積極的に進める。

2. 調査概要

平成22年度は、相馬地域に分布するジュラ

紀の相馬中村層群小山田層より得られた化石および周辺地域の地質調査を実施した。

①平成22年4月3日～4日

平成22年3月に、南相馬市小山田の常磐自動車道工事現場に露出する相馬中村層群小山田層から、相馬中村層群研究会の会員により、白亜紀初期のアンモナイト化石および貝類化石が多数発見された。研究会の八巻安夫氏・荒好氏・平宗雄氏らと共に引き続き化石の採集を行うと同時に、産出地付近に露出する相馬中村層群富沢層と小山田層の地質調査を実施した。

②平成22年4月29日

上述の常磐自動車道石神工事現場でトレンチを掘り、地層の記載と写真撮影および化石採取を行った。調査は相馬中村層群研究会の八巻安夫氏・荒好氏およびもう1名、南相馬市博物館の二上文彦学芸員、そして、新潟大学の松岡篤教授および大学院生2名が共同で行った。化石採集の結果、アンモナイト・二枚貝・巻貝を多数採取することができた。

③平成22年6月26日～27日

相馬中村層群小山田層から発見されたアンモナイトは南相馬市博物館に一括保管されている。このアンモナイトの価値を明らかにするために、ジュラ紀～白亜紀アンモナイト化石研究の第一人者である東京の深田地質研究所会長の佐藤正氏に鑑定を依頼し、現地にて鑑定・評価してもらった。

3. 成果の公表

福島県立博物館紀要第25号に、次のタイトルで相馬中村層群小山田層産のアンモナイト等の化石の報告を掲載した。「南相馬市の相馬中村層群小山田層の新産地から採集されたベリアシアン（白亜紀初期）アンモナイトおよびオウイムガイ化石群集」

(2) その他の調査研究事業

(ア) 古文書整理事業

福島県域に現存する古文書は、他地域と比較して近世初期からの地方文書を大量に含むなど、たいへん良質な事で全国の研究者から注目されている。こうした古文書は、近年の自治体史編纂事業によって、少しずつではあるが人々の目にふれるようになってきた。しかし、保存管理の不備が多々指摘されはじめ、ようやく所在が確認された古文書がその後破損したり、再び所在が確認できなくなったものもある。また、自治体史編纂事業によ

って整理が進行しているとはいえ、未整理の古文書が古物商・古本屋によって買われ、入札会等に陳列されているのも事実である。

こうした現状は、我々に未整理の古文書の整理と、そのマイクロ撮影による古文書原本の保存が急務であることを知らせている。本事業は、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供し、原本を保存することを目的としている。

平成22年度は、「山本重義家寄贈資料」「大澤基宏家寄贈資料」「築田則光家寄託資料」「融通寺寄託資料」を中心に、諸家寄贈・寄託資料の整理を実施した。マイクロ撮影は、昨年度に引き続き「土津神社寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

(ア) 研究成果の公表 (著者の氏名五十音順)

福島県立博物館企画展「千少庵と蒲生氏郷」の展示解説図録は、平成22年3月発行で平成21年度の発行となるが、平成22年度第1回の企画展であるため平成22年度の業績として掲載した。また、福島県立博物館紀要第25号は、東日本大震災の影響で、発行が平成23年度にずれ込んだが、本来22年度の事業であったため平成22年度の業績とした。

1. 印刷物 (単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

榎 陽介・小澤義春・芳賀英一ほか, 2010. 6, ふくしま森林文化企画展図録. 78p., ふくしま森林文化企画展実行委員会.

川延安直, 2011. 4, 新出の白虎隊自刃図について. 福島県立博物館紀要, 第25号, p.89-99, 福島県立博物館.

小林めぐみ・金澤文利・森 幸彦・高橋 充・佐々木長生・阿部綾子・佐藤洋一・田中敏・大竹正浩, 2010. 10, 平成22年度福島県立博物館企画展図録「漆のチカラ—漆文化の歴史と漆表現の現在—」. 119p., 福島県立博物館.

小林めぐみ・高橋 充・降矢哲男, 2010. 3, 平成22年度福島県立博物館第1回企画展「千少庵と蒲生氏郷」. 60p., 福島県立博物館.

佐々木長生, 2011. 4, 実証科学としての『会津農書』—近世農民の数学知識—. 福島県立博物館紀要, 第25号, p.81-88, 福島県立博物館.

佐藤 正・竹谷陽二郎・八巻安夫・栃久保廣泰・荒 好・平 宗雄・岸崎晃一郎・二上

文彦・田村 翼・松岡 篤, 2011. 4, 南相馬市の相馬中村層群小山田層の新産地から採集されたベリアシアン (白亜紀初期) アンモナイトおよびオウムガイ化石群集. 福島県立博物館紀要, 第25号, p.25-48, 福島県立博物館.

高橋 充, 2010. 10, 戦国・織豊期の会津の漆と蠟. 米沢史学, 第26号, p.19-27, 山形県立米沢女子短期大学・米沢史学会.

高橋 充, 2011. 1, 報告要旨 会津における熊野信仰の展開. 東北中世史研究会会報, 第20号, 東北中世史研究会.

高橋 充, 2011. 1, 神指城その後. 第5回北日本城郭検討会資料集 神指城跡と東北地方諸城の様相, 北日本城郭検討会.

高橋 充, 2011. 2, 会津の新宮熊野と新宮氏. 高橋慎一郎 (編) 列島の鎌倉時代—地域を動かす武士と寺社, p.120-145, 高志書院.

時枝 務・高橋 充, 2011. 4, 信夫山頂遺跡出土品の研究 (1). 福島県立博物館紀要, 第25号, p.71-80, 福島県立博物館.

松田隆嗣, 2011. 4, 福島県立博物館における展示・保管環境の変化について—博物館開設から25年間—. 福島県立博物館紀要, 第25号, p.49-70, 福島県立博物館.

横須賀倫達, 2011. 4, 山崎横穴古墳群出土小札甲の調査と研究. 福島県立博物館紀要, 第25号, p.3-23, 福島県立博物館.

2. 学会発表

小澤義春, 2011. 8, 地球の成り立ちと生物の進化に関する小・中・高校生, 大学生, 社会人の認識の現状と課題. 日本理科教育学会第60回全国大会.

佐藤 公・竹谷陽二郎・長橋良隆, 2010. 5, 磐梯山地域をジオパークへ. 日本地球惑星科学連合2011年度連合大会.

(イ) 他団体による委嘱等

阿部綾子: 青森県史編纂委員 青森県

阿部綾子: 伊南村史編纂委員 南会津町教育委員会

阿部綾子: 会津若松市郷土文化財運営委員 会津若松市

阿部綾子: 相馬市史編纂調査執筆委員 相馬市教育委員会

榎 陽介: 相馬市史編纂委員 相馬市教育委員会

榎 陽介: Aizu CMA ward 2010 審査委員 会津青年会議所

川延安直: 喜多方市美術品収集委員 喜多方市教育委員会

川延安直：伊南村史編纂委員 南会津町教育委員会
川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会
川延安直：会津俊英美術展委員 会津俊英美術展運営委員会
川延安直：芸術による地域活性化検討委員 福島大学
川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員 須賀川市教育委員会
川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会
小林めぐみ：伊南村史編纂委員 南会津町教育委員会
佐々木長生：研究プロジェクト「焼畑文化研究」総合地球環境学研究所
佐々木長生：相馬市史執筆委員 相馬市教育委員会
佐々木長生：小高町史編纂委員 南相馬市教育委員会
佐々木長生：民具名称の研究 神奈川大学国際常民文化機構
佐治 靖：環境と開発に関する調査 平安座自治会
佐治 靖：郡山市文化財保護審議委員会委員 郡山市教育委員会
佐治 靖：檜枝岐民俗誌編纂事業委員 檜枝岐村教育委員会
佐治 靖：マイクロサッカーとしての在来知に関する人類学的研究調査委員 日本学術振興会
佐治 靖：おしら様信仰の研究 青森県教育文化助成
佐藤洋一：前沢曲屋集落伝統的建造物群保存地区対策調査・保存計画策定委員 南会津町
佐藤洋一：福島県文学賞審査委員会委員 福島県文化スポーツ局
佐藤洋一：Aizu CMA ward 2010審査委員 会津青年会議所
高橋 充：塩川町史編纂委員 喜多方市教育委員会
高橋 充：二本松城調査指導委員会委員 二本松市教育委員会
高橋 充：向羽黒城整備委員会委員 会津美里町教育委員会
高橋 充：原町市史編纂委員 南相馬市教育委員会
高橋 充：相馬市史編纂委員 相馬市教育委員会

高橋 充：会津藩主松平家墓所及び松平氏庭園指導会議委員 会津若松市教育委員会
高橋 充：会津藩主松平家墓所保存修理検討委員会委員 猪苗代町教育委員会
高橋 充：阿津賀志山防塁整備指導委員会委員 国見町教育委員会
高橋 充：宮脇遺跡調査指導委員会委員 伊達市教育委員会
高橋 充：会津坂下町史編纂委員 会津坂下町教育委員会
竹谷陽二郎：相馬市史執筆委員 相馬市教育委員会
竹谷陽二郎：ジオパーク協議会運営部会長 磐梯山ジオパーク協議会
藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員会委員 会津若松市教育委員会
藤原妃敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津若松市教育委員会
藤原妃敏：塩川町史編纂委員 喜多方市教育委員会
藤原妃敏：原町市史編纂専門研究員 原町市教育委員会
藤原妃敏：鹿島町史編纂委員 南相馬市教育委員会
藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美里町教育委員会
藤原妃敏：喜多方市立美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会
藤原妃敏：文化遺産オンライン検討委員会委員 文化庁伝統文化課
藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡山女子短期大学
藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会
松田隆嗣：会津藩松平家墓所保存整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
松田隆嗣：会津藩主松平家墓所保存修理検討委員会委員 猪苗代町教育委員会
松田隆嗣：北海道・東北保存科学研究会代表同会
松田隆嗣：文化財保存修復学会会誌編纂委員 文化財保存修復学会
森 幸彦：原町市史編纂専門研究員 南相馬市教育委員会
森 幸彦：鹿島町史編纂委員 南相馬市教育委員会
森 幸彦：三島町歴史文化基本構想策定委員会文化財調査部会委員 三島町
横須賀倫達：日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会全国委員 日本考古学協会

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では、館長と学芸員自らおよび外部講師に依頼し、一般利用者向けの各種の講座や講演会を実施している。

平成22年度行事一覧

(1) 木曜の広場

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
『遠野物語』を読む1		赤坂憲雄	館長	4月1日(木)	111
『遠野物語』を読む2		赤坂憲雄	館長	5月6日(木)	118
『遠野物語』を読む3		赤坂憲雄	館長	6月3日(木)	99
『遠野物語』を読む4		赤坂憲雄	館長	7月1日(木)	83
『遠野物語』を読む5		赤坂憲雄	館長	8月5日(木)	76
『遠野物語』を読む6		赤坂憲雄	館長	9月2日(木)	86
『遠野物語』を読む7		赤坂憲雄	館長	10月7日(木)	82
『遠野物語』を読む8		赤坂憲雄	館長	11月4日(木)	71
『遠野物語』を読む9		赤坂憲雄	館長	12月2日(木)	79
『遠野物語』を読む10		赤坂憲雄	館長	1月6日(木)	70
『遠野物語』を読む11		赤坂憲雄	館長	2月3日(木)	88
『遠野物語』を読む12		赤坂憲雄	館長	3月3日(木)	80

(2) 考古学講座

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
考古学講座「土器作り1」		大竹正浩ほか	学芸員	7月24日(土)	17
考古学講座「土器作り2」		大竹正浩ほか	学芸員	7月25日(日)	17
考古学講座「高校生のための考古学集中講座1」		田中 敏ほか	学芸員	8月4日(水)	3
考古学講座「高校生のための考古学集中講座2」		田中 敏ほか	学芸員	8月5日(木)	3
考古学講座「高校生のための考古学集中講座3」		田中 敏ほか	学芸員	8月6日(金)	3
考古学講座「土器の野焼き」		大竹正浩ほか	学芸員	9月26日(日)	30
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」		横須賀倫達ほか	学芸員	12月11日(土)	17

(3) 民俗講座

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
映像から学ぶ民俗学①「千歯扱き」		佐々木長生	学芸員	6月13日(日)	12
映像から学ぶ民俗学②「奥会津の木地師」		榎 陽介	学芸員	7月10日(土)	30
映像から学ぶ民俗学③「茂庭のくらし」		二瓶浩伸	学芸員	8月22日(日)	24
映像から学ぶ民俗学④「会津の初市」		佐々木長生	学芸員	1月8日(土)	28

(4) 歴史講座

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
漆の歴史シリーズ1「縄文時代漆の考古学」		森 幸彦	学芸員	6月5日(土)	56
漆の歴史シリーズ2「会津の戦国大名と漆」		高橋 充	学芸員	6月12日(土)	53
漆の歴史シリーズ3「築田家文書と漆」		阿部綾子	学芸員	6月19日(土)	58
漆の歴史シリーズ4「明治期子ども読み物に見える漆器」		佐藤洋一	学芸員	6月27日(日)	32
人物シリーズ1「戦国大名葦名氏と沼沢出雲守」		高橋 充	学芸員	9月4日(土)	112
人物シリーズ2「柴四朗・東海散士を読む」		佐藤洋一	学芸員	10月2日(土)	58
人物シリーズ3「国会開設と代議士・河野広中の誕生」		星 幸	学芸員	11月6日(土)	41
人物シリーズ4「書で読む戊辰戦争」		阿部綾子	学芸員	1月22日(土)	85
歴史講座「天神さま信仰の流れ」		真壁俊信	歴史学博士	3月5日(土)	37

(5) 美術講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
展示室講座1		「白虎隊の図像学」	川延安直		学芸員	7月4日	(日)	35
展示室講座2		「けんぱくの宝2010」	川延安直・小林めぐみ		学芸員	9月11日	(土)	18

(6) 自然史講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
野外講座		「郡山で化石をさがそう」※郡山市ふれあい科学館との連携事業	竹谷陽二郎・相田 優		学芸員	5月22日	(土)	40
みどりの地球をつくった植物たち		—木村達明コレクションの中生代植物化石	小澤義春		学芸員	9月25日	(土)	9
鶴ヶ城の野鳥			古川裕司		鳥類研究家	11月14日	(日)	8

(7) 指導者向け研修

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
博物館利用指導者研修会			二瓶浩伸ほか		学芸員	8月19日	(木)	11

(8) 実技講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
須賀川の絵のぼり製作		・小旗作り	大野青峯・大野久子		伝統技術保持者	5月5日	(水)	10
三島の編み組細工①		「山ぶどう細工」	菅家藤一		伝統技術保持者	6月20日	(日)	20
三島の編み組細工②		「ひろろ細工」	菅家藤一		伝統技術保持者	9月12日	(日)	21
布ぞうり作り①			土田晶子		エコの種代表	1月23日	(日)	3
布ぞうり作り②			土田晶子		エコの種代表	2月27日	(日)	2

(9) 実演

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
昔語り①			横山幸子		語り部	5月2日	(日)	25
昔語り②			山田登志美		語り部	6月6日	(日)	6
昔語り③			横山幸子		語り部	8月29日	(日)	19
昔語り④			山田登志美		語り部	9月26日	(日)	11

(10) 企画展

タ	イ	ト	ル	期	日
千少庵と蒲生氏郷				4月17日	(土)～5月30日(日)
森に生き山に遊ぶ！—ふくしまの森林文化—				6月26日	(土)～8月22日(日)
漆のチカラ—漆文化の歴史と漆表現の現在—				10月9日	(土)～11月28日(日)

(11) 企画展関連行事(記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
企画展関連展示		「会津若松城・麟閣に捧げる会津ゆかりの四人展」(会場～会津若松城内・茶室麟閣)				5月12日	(水)～5月27日(木)	
展示室講座第1回		「氏郷の生涯—『蒲生記』を読む1」	高橋 充		学芸員	4月17日	(土)	73
展示室講座第2回		「会津の茶の湯」	小林めぐみ		学芸員	4月29日	(木)	54
展示室講座第3回		「氏郷以後の蒲生家—『蒲生記』を読む2」	高橋 充		学芸員	5月8日	(土)	75
展示室講座第4回		「茶の湯にみるやきもの」	降矢哲男		茶道資料館学芸員	5月30日	(日)	103

「千少庵と蒲生氏郷」展示解説会	高橋 充・小林めぐみ	学芸員	4月25日(日)	24
「千少庵と蒲生氏郷」展示解説会	高橋 充・小林めぐみ	学芸員	5月3日(月)	30
「千少庵と蒲生氏郷」記念講演会	筒井絃一	茶道資料館副館長	5月1日(土)	220
野口英世青春通りおもてなしトーク 第1部：きむらとしろうじんじんさんトーク「野点屋さんの魅力」 第2部：高校生が作った天目茶碗～会津工業高校の取り組み	きむらとしろうじんじん・佐藤正道	陶芸家・会津工業高校教諭	5月23日(日)	40
アクアマリンふくしま・福島県立博物館共催事業 アクアマリン・潮風アート茶会			5月16日(日)	300
御薬園茶懐石講座「江戸時代の会津の茶会記から」	平出美穂子・小林めぐみ	伝統料理研究家・学芸員	5月9日(日)	12
森林文化展オープニングトーク「森から未来へ」	藤本 強・富田孝志・安部義孝・檜村利道・赤坂憲雄	福島県文化財センター白河館長・福島県歴史資料館長・ふくしま海洋科学館長・ふくしまフォレスト・エコライフ財団理事長・福島県立博物館長	6月26日(土)	123
森林文化展記念トーク「明日を素敵に生きるには」	安藤和津	県しゃくなげ大使・エッセイスト	6月26日(土)	138
樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」	蓮沼憲二	福島県植物研究会、会津生物同好会	7月11日(日)	25
森林文化展記念講演会「山の技術と資源の活用ー吉野と熊野のフィールドからー」	加藤幸治・森本仙介	東北学院大学専任講師・天理大学非常勤講師	7月17日(土)	55
森林文化展記念講演会「森は動いているー樹木の長い一生を科学するー」	中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授	7月18日(日)	64
森林文化展記念講演会「会津の森を語り明かそう」	湯川洋司・佐々木長生	山口大学教授・学芸員	8月1日(日)	28
森林文化展実演「手引きろくろ」	紀 治男・金井 晃	技術保持者	8月8日(日)	30
アーティストトーク	藤田敏彰・松島さくら子・中島靖高・保井智貴	漆造形家・漆造形家・現代美術家・現代美術家	10月9日(土)	42
第2回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡～漆とものづくり文化～「フィールドワーク」	森 幸彦・小松順太郎・五十嵐文吾・二瓶新永	学芸員・三島町文化財専門委員・伝統工芸士・伝統工芸士	10月29日(金)	50
第2回三島学フォーラム 荒屋敷遺跡～漆とものづくり文化～「座学」	四柳嘉章・赤坂憲雄・森 幸彦	石川県輪島漆芸美術館長・福島県立博物館長・学芸員	10月30日(土)	50
講演会「漆の文化史ー9000年の時を超えて」	四柳嘉章	石川県輪島漆芸美術館長	10月31日(日)	67
「The Voice of (漆)」リーディングパフォーマンス	吉増剛造	詩人	11月2日(土)	38
映像パフォーマンス「The Voice of (漆) ー会津にてー」	吉増剛造	詩人	11月3日(水・祝)	48
「漆のチカラ」ギャラリートーク	小林めぐみ・大竹正浩	学芸員・学芸員	11月7日(日)	22

ワークショップ「漆絵でmy箸を作ろう」	めしもり山工房のみなさん		11月13日(土)	17
ワークショップ「漆絵でmy箸を作ろう」	めしもり山工房のみなさん		11月14日(日)	17

(12) 特集展

タイトル	期 日
「平成新指定史跡展覧ー未来へつなぐ福島の遺跡」	～5月16日(日)
(まほろん移動展)「里帰り展 ふくしまの土偶」	12月7日(火)～1月30日(日)
「永山巨コレクション展」	3月5日(土)～5月15日(日)

(13) 特集展・テーマ展関連行事

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
テーマ展「ふるさとの考古資料1」関連講演会・報告会	穴沢味光ほか	前福島県考古学会 会長	7月31日(土)	165
講演会「土偶のはなし」	藤沼邦彦	前弘前大学教授	1月16日(日)	54

(14) テーマ展示

タイトル	期 日
「会津の茶の湯ー会津本郷焼と会津漆器の名品・江戸から現代までー」	4月17日(土)～5月30日(日)
ふるさとの考古資料1ー会津若松市遺跡探訪ー	5月29日(土)～平成23年5月15日(日)
白虎隊の図像学	6月12日(土)～8月1日(日)
昭和のくらしーあの頃の家電製品ー	6月8日(火)～3月21日(月)
けんぱくの宝	8月7日(土)～9月12日(日)
相馬地域の干拓	9月7日(火)～3月31日(木)
ふくしまの画人たち	12月4日(土)～1月9日(日)
書に込めた心	1月15日(土)～2月13日(日)
天神さま	2月26日(土)～平成23年4月17日(土)

(15) ポイント展示

タイトル	期 日
笹山原遺跡群の旧石器	4月20日(土)～5月28日(金)
三角縁神獸鏡と会津の銅鏡	4月20日(土)～9月26日(日)
恵日寺絵図	4月22日(木)～5月26日(水)
腕足類ってなに？	4月24日(土)～6月4日(金)
化石でみるブナ林	7月6日(火)～9月5日(日)
風船爆弾の気球	7月7日(水)～9月14日(火)
落下傘で作った着物	7月22日(木)～8月22日(日)
沼沢出雲守家臣連判状	9月2日(木)～9月26日(日)
相馬岡田文書	9月2日(木)～10月11日(月・祝)
桧原湖の埋没林	9月7日(火)～10月31日(日)
死者を見守る顔	9月11日(土)～3月27日(金)
和同開珎	9月11日(土)～11月23日(火・祝)
あの世に旅立つとき	10月1日(金)～11月30日(火)
ふくしま教育のあゆみ	10月19日(火)～11月30日(火)
国会開設とふくしま	10月19日(火)～12月19日(日)
おばあちゃんの記憶ーこたつ掛け	12月1日(水)～1月30日(日)
塩沢上原遺跡の石器	12月4日(土)～3月27日(金)
会津孝子伝	1月13日(木)～3月30日(水)
小さな雛まつり	2月22日(火)～平成23年4月3日(日)

(16) 移動展

タイトル	期 日
いわき市考古資料館 第1回企画画展・福島県立博物館 移動展「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代」	4月21日(水)～8月31日(火)

(17) ミュージアムイベント

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
(福島県立博物館・(財)会津若松文化振興財団 共催事業)「音の化石ーイマジネーション」会津 風雅堂ワークショップコンサート	会津市民オーケストラ の皆さん・ワークショ ップ参加の子どもたち	会津市民オーケ ストラ	4月25日(日)	150
国際博物館の日記念事業「玄如節と会津の民謡」 「ナイトミュージアム」for KIDS	玄如節顕彰会の皆さん 各分野学芸員	玄如節顕彰会 学芸員	5月15日(土) 8月21日(土)	70 60
「コシェル ラ ムジカ セピア色の音楽会」	安ヶ平由希絵・神田由 布子・渡部史子	コシェル ラ ムジカ	9月18日(土)	165
「友の会文化祭」	友の会の皆さん	友の会	10月17日(日)	450
クリスマスジャズコンサート「古代の千年後!!」	天田 透 ほか	ジャズフルーテ イスト	12月18日(土)	150
真冬の学習①「ふくしまの近代化遺産」	荒木 隆	福島県教育庁文 化財課	1月15日(土)	27
真冬の学習②「会津の鉱山と近代化」	佐藤一男	元福島県近代化 遺産総合調査委 員会調査員	2月19日(土)	110

(18) for KIDSプログラム

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
「夏休み宿題相談会」①	各分野学芸員	学芸員	7月28日(水)	5
「夏休み宿題相談会」②	各分野学芸員	学芸員	7月29日(木)	12

(19) 会津漆の芸術祭関連事業

タイトル	期 日
会津・漆の芸術祭	10月16日(土)～11月23日(火)

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
ワークショップ うぶすなアートラボ～カミタ マン!お子様は神様なんだな～	出町光識	招待作家	7月12日(月)	50
ワークショップ うぶすなアートラボ～カミタ マン!お子様は神様なんだな～	出町光識	招待作家	7月13日(火)	17
ワークショップ 漆の木を知ろう	辻 けい・谷口 吏	招待作家	7月16日(土)	17
ワークショップ「うるしのこぼしさん ぬりぬ りお手伝い会」	はと	参加作家	8月28日(土)	40
ワークショップ「うるしのこぼしさん ぬりぬ りお手伝い会」	はと	参加作家	8月29日(日)	38
坂内まゆこ(昭和村)ワークショップ	坂内まゆこ	招待作家	9月6日(月)	15
いらはらみつみ(三島町)ワークショップ	いらはらみつみ	招待作家	9月7日(火)	21
いらはらみつみ(三島町)ワークショップ	いらはらみつみ	招待作家	9月7日(火)	46
坂内まゆこ(昭和村)ワークショップ	坂内まゆこ	招待作家	9月8日(水)	8
ワークショップ 新聞紙を丸めて子豚を作ろう	山本伸樹	参加作家	9月13日(月)	50
ワークショップ 新聞紙を丸めて子豚を作ろう	山本伸樹	参加作家	9月15日(水)	50
オープニングセレモニー			10月2日(土)	226

赤坂憲雄ディレクターとめぐる会津・漆の芸術祭ツアー	赤坂憲雄	福島県立博物館長	10月2日(土)	8
パフォーマンス「空っぽの風景」+即興パフォーマンスライブ「SHINCOSHU」	山本伸樹・千葉瑠依子・中里広太・水沼慎一郎	参加作家・コンテンポラリーダンサー・演奏家・演奏家	10月3日(日)	40
食と酒と漆の祭典			10月5日(火)	
山下裕二さんと語る「会津・漆の芸術祭」	山下裕二・赤坂憲雄	明治学院大学教授・福島県立博物館長	10月10日(日)	23
漆の楽器コンサート	ブルース・ヒューパナー・カーティス・パターソン	尺八奏者・箏奏者	10月16日(土)	113
ワークショップ「うるしころ」	井波 純・吾子可苗・会津大学短期大学部生	招待作家・招待作家	10月16日(土)	17
ワークショップ「うるしころ」	井波 純・吾子可苗・会津大学短期大学部生	招待作家・招待作家	10月17日(日)	21
会津・漆の旅(会津若松展示会場/工房編)	小林めぐみ	学芸員	10月17日(日)	6
トークイベント「漆で表現する」	青木千絵・青木洋介・吾子可苗・伊能一三・岩田俊彦・立岩朝子・早崎小夜子	招待作家・招待作家・招待作家・招待作家・招待作家・招待作家	10月23日(土)	37
パフォーマンス「漆(しつ)と雪(ゆき)と」	吉増剛造・杉原信幸・山形淑華	詩人・参加作家・参加作家・参加作家	11月2日(火)	31
ワークショップ「うるしころ」	井波 純・吾子可苗・会津大学短期大学部生	招待作家・招待作家	11月3日(水・祝)	25
会津・漆の旅(喜多方展示会場/漆植栽地見学)	川延安直・NPO法人はるなか漆部会のみなさん	学芸員	11月6日(土)	6
ワークショップ「うるしのこぼしさん ぬりぬりお手伝い会」	はと	参加作家	11月13日(土)	30
ワークショップ「うるしのこぼしさん ぬりぬりお手伝い会」	はと	参加作家	11月14日(日)	40
劇団きらく座公演「漆屋傳兵衛」	劇団きらく座	参加作家	11月14日(日)	129
帰ってきたくじら祭~パート2~	出町光識・南 阿豆	招待作家・田楽師	11月14日(日)	24
蔵元歳時記 えびす講+漆の楽器コンサート	会津能楽会会員		11月15日(月)	100
シンポジウム「福島・会津・いわきアートトライアングルを語る」	吉田重信・渡邊晃一・赤坂憲雄	いわきアートトリエンナーレディレクター・福島現代アートビエンナーレディレクター・福島県立博物館長	11月20日(土)	30
会津・漆の旅(会津若松展示会場/工房編)	金澤文利	学芸員	11月21日(日)	20
辻けいさんと語る会	辻けい	招待作家	11月21日(日)	30
食と酒と漆の祭典ーフィナーレイベントー			11月23日(火・祝)	
シンポジウム「会津・漆・アート」	樋田豊次郎・山下裕二・赤坂憲雄	秋田公立美術工芸短期大学学長・明治学院大学教授・福島県立博物館長	11月23日(火・祝)	101

(20) 後援事業

テ マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
NPO法人はるなか桜守養成講座	佐藤光信・芳賀滋介	NPO法人はるなか理事長・興農園代表	5月9日(日)	10
青木山を守る会講演会「山の暮らしとこれから」	結城登美雄	宮城教育大学非常勤講師	5月16日(日)	45
まほろん文化財保護指導者研修会	高橋 充 ほか	学芸員	7月22日(木)	91
会津史学会歴史文化講演会「保科正之とその時代」	阿部綾子	学芸員	10月24日(日)	225
会津工芸新生会講演会「自然から学んできたこと」	根本曠子	日本工芸会正会員	10月30日(土)	52
青木山を守る会講演会「青木山にいだかれた人々」	佐々木長生	専門員	11月7日(日)	32
放送大学福島学習センター公開講演会「福島の貴重な食文化」	近藤榮昭	放送大学客員教授	12月5日(日)	53
会津史談会文化史講座公開講演会「中世期の会津」	高橋 充	学芸員	12月9日(木)	144
NPO法人はるなか講演会「田中玄宰と寛政の改革」	中村彰彦	歴史小説家	12月11日(土)	250
北日本近世城郭検討会「上杉景勝の築いた神指城と当時の東北地方の城を探る」	鈴木 啓 ほか	北日本近世城郭検討会会長 ほか	1月30日(日)	220
ゆめ寺子屋講座「犯罪の現状と対策」		会津若松警察署	2月10日(木)	257
ゆめ寺子屋講座「明治維新と白虎隊」	早川廣中	白虎隊記念館長	2月24日(木)	350
NPO法人はるなか講座「棉繰り・糸紡ぎ講習会」	榎 陽介	学芸員	2月20日(日)	33
NPO法人はるなか生物調査発表会「里山と鳥獣害」	小金澤正昭	宇都宮大学教授	2月26日(日)	104



木曜の広場「遠野物語を読む1」



考古学講座「土器作り」



考古学講座「土器の野焼き」



民俗講座 映像から学ぶ民俗学①「千歯扱き」



民俗講座 映像から学ぶ民俗学③「茂庭のくらし」



歴史講座 漆の歴史シリーズ1「縄文時代 漆の考古学」



歴史講座 人物シリーズ3
「国会開設と代議士・河野広中の誕生」



美術講座 展示室講座1「白虎隊の図像学」



美術講座 展示室講座2「けんぱくの宝2010」



自然史講座 野外講座「郡山で化石をさがそう」



自然史講座 「郡山で化石をさがそう」
郡山市ふれあい科学館での化石のクリーニング



自然史講座 「鶴ヶ城の野鳥」



実技講座 須賀川の絵のぼり製作・小旗作り



実技講座 三島の編み組細工①「山ぶどう細工」



実技講座 布ぞうり作り



実演昔語り①



実演昔語り④



会津史学会歴史文化講演会「保科正之とその時代」



北日本近世城郭検討会 記念講演「館から都市へ」

(2) ミュージアムイベント

地域に開かれた親しみやすい博物館を目指すため、ミュージアムイベントと称し、エントランスホールを中心に各種のイベントを開催した。

(ア) 「音の化石－イマジネーション－」ワークショップコンサート

主催：財団法人会津若松文化振興財団
福島県立博物館

1. 日時 平成22年4月25日(日) 13時30分～15時
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 150人
4. 出演 会津市民オーケストラとワークショップ参加の子供たち
5. 内容

会津風雅堂の芸術啓発事業（アウトリーチ事業）の一環。会津市民オーケストラにより会津地域の小・中・高生に演奏技術を伝える講習会（ワークショップ）を4回開催した。その成果を一般市民に向けて発表した。

(イ) 玄如節と会津の民謡



「音の化石－イマジネーション－」ワークショップコンサート

1. 日時 平成22年5月15日(土) 13時30分～15時
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 70人
4. 出演 玄如節顕彰会の皆さん
5. 内容

玄如節は、即興の掛合で歌うのを基本とする会津の民謡の源流である。玄如節を中心にあいつの民謡の公演を実施した。

6. 成果と課題

- ①玄如節の民俗学的価値を県民に紹介できた。
- ②マイクおよびスピーカー等の音響機材の改良が必要である。



玄如節と会津の民謡

(ウ) コシエル ラ ムジカ セピア色の音楽会

1. 日時 平成22年9月18日(土) 13時30分～15時
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 165人
4. 出演 コシエル ラ ムジカ
ソプラノ：渡部史子氏
ピアノ：神田由布子氏
フルート：安ヶ平由希絵氏
5. 内容

5. 内容

コシエルラムジカは福島県を中心に演奏活動をしている演奏家の集まり。会津地域の音楽向上を目指して平成20年の4月に結成された。今回は、明治に西洋の音楽を取り入れてからの日本音楽の変遷の様子を、明治・大正・昭和の童謡、抒情歌を中心に聴かせた。

(エ) 友の会文化祭

1. 日時 平成22年10月17日(日) 10時～16時
2. 会場 エントランスホール・エントランス広場ほか
3. 参加人数 450人
4. 参加団体

会津大学先端情報科学研究センター 若松第一高等学校 会津工業高等学校 会津若松ザベリオ学園高等学校考古学部 押花サークル花趣倶楽部 ファンファーラあいつ 歴史春秋社 会津生物同好会 友の会古文書愛好

会 友の会化石・鉱物探検隊 友の会道ばた
文化財研究会 博物館考古分野

5. 内容

「見て、ふれて、体験できる文化祭」をテーマに、博物館共催、会津若松市と会津若松市教育委員会後援により、第2回福島県立博物館友の会文化祭が開催された。友の会3サークル・博物館考古分野に加え外部から8団体が参加して、16ブースに上る展示発表・体験活動と吹奏楽演奏が展開され、文化祭に訪れた市民は秋の1日を楽しんだ。

具体的展示・発表内容は、ミニソーラーカー試乗、吹奏楽演奏会、月探査衛星かぐや1/10模型の展示、月表面ハイビジョン映像の映写、ソーラーカー展示、天目茶碗の展示、セラミック科生徒実習作品の展示、超電導セラミックの実験・展示、からむし布の展示、ミニ土器展示、押花額絵の展示、古文書の展示と解説、書籍展示、青木山の植物研究展示、友の会の紹介展示、友の会ミュージアムショップ開設、化石のクリーニング体験、仏像の着付け、火おこし体験・弓矢体験である。

6. 成果と課題

- ①会員の活動成果を発表することを通して、友の会活動を広く地域の方々に知ってもらうこと、参加各種団体と来場者が世代を超えて交流を図る場を創造することを目標に開催された。アンケート調査や来場者の感想・表情から、この目標はほぼ達成できたと思われる。
- ②友の会会員がさらに多く参加することで、円滑に運営されることが課題である。



友の会文化祭オープニングセレモニー



エントランスホールでのパネルブース

(オ) クリスマスジャズライブ「古代の千年後!？」

1. 日時 平成22年12月18日(土) 13時30分～16時
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 150人
4. 出演
天田 透氏 (横笛／バスフルート／コントラバスフルート)
香取良彦氏 (ビブラフォン)
坂田 学氏 (ドラムス)
斎藤草平氏 (ベース)

5. 内容

天田透さんは、玉川村江平遺跡から出土した奈良時代の竹製横笛の復元研究を行い、復元品演奏を行っているフルーティスト。第1部では、当館学芸員森幸彦と対談し、江平の笛の概要と復元に至る経緯やエピソードを紹介した後に、江平の笛復元品の演奏を行った。第2部は日本のジャズ界を代表する4人の若手ミュージシャンによるジャズコンサートで、クリスマスにちなむナンバーやオリジナル曲の演奏を行った。古代と現代の音が時空を超えて混じり合う、異色のライブが展開された。



クリスマスジャズライブ「古代の千年後!？」

(3) 館長サタデープロジェクト

平成20年度から、ミュージアムイベントの企画として、「館長サタデープロジェクト 真冬の学習」を実施している。それぞれの年度に、福島県の歴史・文化・自然に関するタイムリーなテーマを設けて、そのテーマに精通したゲストを招き、館長との対談を交えて来場者とともに考えようとするものである。平成22年度の館長サタデープロジェクトは、福島県の近代化遺産に焦点をあてて開催した。計3回を予定したが、3回目に予定していた常磐炭田の近代化遺産については、3月11日に起こった東日本大震災の影響で中止となった。

(ア) ふくしまの近代化遺産を考える

1. 日 時 平成23年1月15日(土) 13時30分～15時
2. 会 場 講堂
3. 参加者数 27人
4. ゲスト 福島県教育庁文化財課
荒木 隆氏

5. 内 容

まず「近代化遺産」の定義の説明から始まり、日本を代表する近代化遺産を紹介。これらと対比する形で、福島県の近代化遺産が、安積開拓、電源開発、蚕糸業、常磐炭田、道路鉄道網の整備に特徴があることが示され、それぞれに関わる遺産が紹介された。今後これらをまちづくりや地域活性化の原動力として、あるいは教育観光資源としておおいに活用していくことが望まれると締めくくった。



ふくしまの近代化遺産を考える

(イ) 会津の鉱山と近代化

1. 日 時 平成23年2月19日(土) 13時30分～15時
2. 会 場 講堂
3. 参加者数 27人
4. ゲスト 元福島県近代化遺産総合調査委員

会調査員 佐藤一男氏

5. 内 容

会津の鉱山で長年勤務した佐藤一男氏が、近世以来の会津の鉱山の歴史について講演。特に、会津藩の鉱山支配、明治に入ってから近代化、そして昭和40年代の相次ぐ閉山について紹介した。



会津の鉱山と近代化

(4) for Kidsプログラム

福島県立博物館では、夏休みは子ども向けの企画を優先的に実施してきた。平成22年度の夏は二つの子供向け行事を催した。

(ア) ナイトミュージアムfor KIDS

1. 日 時 8月21日(土) 17時～19時
2. 会 場 常設展示室
3. 参加者数 60人
4. 内 容

常設展示室の竪穴住居（電気がない縄文時代）、中世の板碑（戦が多かった中世の信仰）、木炭バス（戦争の時代、戦後の時代の生活）、フタバスズキリュウ（人類誕生以前の恐竜時代）を順に巡ることによって、非日常的な懐中電灯の光に照らされた各時代の展示資料の意義を体感する。

5. 成果と課題

暗闇の常設展示室を懐中電灯の光をたよりに歩きながら、参加した子どもや保護者から、感嘆の声や驚愕の声が聞こえた。ポイントとなる展示資料のみならず光に照らされた周囲の展示資料も参加者の興味を喚起するものとなった。なお、事前に参加希望者を募ったが、定員オーバーで参加希望を断るケースがあった。次年度以降は、できるだけ参加希望を受け入れるように工夫する必要がある。



ナイトミュージアムfor KIDS

(イ) けんぱく夏休み宿題相談会

「夏休み宿題相談会」は、小・中・高校生の夏休みの課題研究・自由研究について、博物館の学芸員がテーマの選び方や研究の方法についてアドバイスをし、関連する資料や図書を紹介するという企画で、平成21年度から実施している。今回は「夏休み宿題相談会」の前に、夏休みの自由研究や課題研究のテーマを博物館の展示を通して見つけてもらおうという意図で、「けんぱく夏休み展示解説会」を開催した。

①けんぱく夏休み展示解説会

1. 日時 平成22年7月28日(水)
10時～12時
2. 会場 常設展示室
3. 参加者数 10人
4. 講師 各分野学芸員（歴史：星、考古：横須賀、美術：川延、自然：小澤・相田、民俗：船尾・二瓶）
5. 内容

各学芸員が担当箇所の展示解説を10分～15分でおこなった。解説会の時間は、小学生で1時間程度、中学生で80分程度となった。解説箇所は次の通りである。歴史分野は常設展示にてテーマ展「昭和のくらしーあの頃の家電製品ー」、考古分野は部門展示室にてテーマ展「ふるさとの考古資料1 会津若松市遺跡探訪」、美術分野は部門展示室にてテーマ展「白虎隊の図像学」、自然分野は部門展示室にてポイント展「化石でみるブナ林ー落葉広葉樹帯の起源をさぐるー」とパレオパラドキシア化石、民俗分野は常設展示近世の農具等と部門展示室の民具の解説となった。

6. 成果と課題

夏休み前に、市内の小中学校と高校には資料を配布するなどしたが、参加申し込み

も少なく、小中学生の参加だけにとどまった。博物館を利用した夏休みの課題が出されている市内の中学校もあるため、各学校の教員と連携を図り、展示解説会の内容や課題を考えるなどの検討が必要とみられる。



夏休み展示解説会

②けんぱく夏休み宿題相談会

1. 日時 平成22年7月28日(水)13時～16時
29日(木)10時～16時
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 小学生9人(8人は母親同伴)
4. 内容
 - ・宿題のテーマを決めたいのでヒントを欲しいが3名、既に決めたテーマについて具体的なアドバイスが欲しいが6名で、既にある程度テーマを決めている方が決めていない方の2倍あった。
 - ・相談された分野としては、自然分野がほとんどで動植物に関する質問が3件あった。考古は1件、あとは皆無であった。小学生の自由研究が理科の場合が多い影響であろう。
5. 課題
 - ・HP、ちらし等で広報し、直接学校を訪問し依頼した(小学校4校、中学校6校、高校4校)。しかし相談者は小学生だけ9人のみだった。また相談分野は自然分野がほとんど。労力の割には成果が上がらなかったと言える。博物館がこのテーマに関して期待されているか疑問である。
 - ・相談した後、再度来館して成果を相談した者はなかった。宿題に関する紹介やヒントを与えたが、もし大いに触発され、それをもとに研究を進めたなら再度相談にくるはず。結果的に導入的役割に終始したのがほとんどと言えるだろう。
 - ・本来博物館資料に関連した、あるいは資料を活用した相談を意図していた。博物

館資料を活用できたのは黒曜石と鉱物の比較鑑定のみ。博物館資料自体を宿題の資料として提供することはむずかしい。

- 学芸員でなければできない相談だったかどうか。学校の先生でも十分対応できるものがほとんどだった。
- 同じ形で継続してもそれほど事業効果が望めないだろう。いかに学芸員と博物館資料を活用するか。学校の先生と連携してプログラムを作るなど検討する必要がある。



夏休み宿題相談会

(4) 学校・文化施設との連携

学校および文化施設との連携をはかり、次の事業を実施している。

(ア) 展示室での自主学习

当館のホームページから時代や分野ごとの「ワークシート」9枚がダウンロードでき、利用する団体が学習目的にあわせて利用できる。常設展示室のテーマ別に主な展示品を題材にしている。

(イ) 団体体験学習プログラム

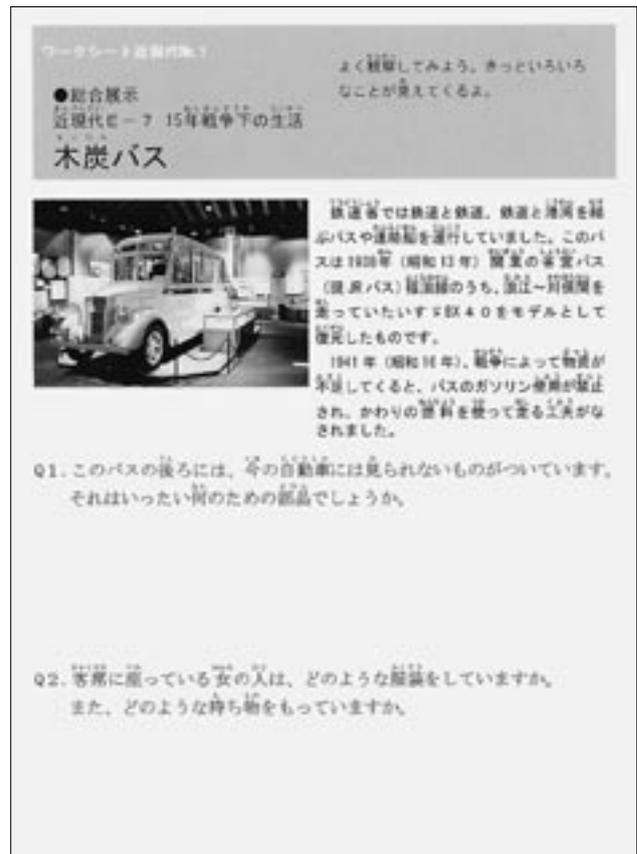
来館した児童生徒が博物館資料を用いた直接体験をすることは、多様なものの見方、考え方を養う上で有効であることから、団体の要望に応じて体験学習を実施している。なお、「古代の技に挑戦（考古）」「化石にふれてみよう（自然）」「糸紡ぎ（民俗）」「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史）」の体験メニューを用意し、入館団体が選択して利用しやすいようにしている。

体験学習プログラム実施状況（分野・回数）

4月（考古・4回） 5月（考古・2回）
 6月（考古・6回 民俗・2回） 7月（考古・2回 自然・1回） 10月（民俗・1回 自然・2回 考古・1回 美術・1回）
 11月（考古・2回 民俗・1回） 12月（考古・2回 歴史2回） 1月（考古・1回）

歴史・1回)

合計31回



ワークシート「木炭バス」



古代の技に挑戦「火おこし」



化石にふれてみよう「化石&火山灰」

(ウ) 指導者向け研修（博物館研修講座）

学校教育・生涯教育関係者を対象に、博物館の利用方法の周知と、体験メニューを実際に体験してもらい学校や公民館等が授業や講座で利用できるという意識を高めることを目的に研修講座を実施した。博物館が行っている体験メニューや団体入館時の体験学習の事例等を紹介した。

平成22年8月19日（木）参加者11名（小学校教員4名 中学校教員6名）



指導者向け研修「糸紡ぎ」

(エ) 体験用具の貸出

学校や生涯教育関連施設が行う体験的活動を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で体験用具・教材の貸出を行っている。用具貸出状況

9月10日 化石・岩石採集用ハンマー25点
ほか ヒカリスカウト育成会

(オ) ゲスト・ティーチャー

博物館学芸員の専門知識や経験を館外でも有効に利用してもらうため、博物館の予算で学校や公民館等の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を実施した。



ゲストティーチャー「奥会津風土体感プログラム」

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	内 容	実 施 先
5月27日	佐々木長生	奥会津風土体感プログラム	福島県立川口高校
10月13日	相田 優	会津の自然	学校法人慈光学園
10月19日	相田 優	会津の自然	学校法人慈光学園
11月10日	川延安直 小林めぐみ 金澤文利	水墨画の学習	喜多方市立山都中学校
11月11日	森 幸彦	会津の縄文・弥生のはなし	会津若松市立一箕小学校
12月8日	船尾 武彦	江戸時代の和算	会津若松市立大戸中学校
12月15日	森 幸彦	奥会津の昔むかし～奥会津の古代	三島町教育委員会
3月17日	船尾 武彦	江戸時代の和算	会津若松市立北会津中学校

(カ) 職場体験

生徒の適切な進路選択に寄与すべく、学校からの要請を受け入れ、実際に博物館業務を体験させた。

- ①会津若松市立第四中学校（5名）2日間
- ②湯川村立湯川中学校（3名）2日間
- ③福島県立若松商業高等学校（5名）2日間
- ④会津若松市立北会津中学校（2名）2日間



職場体験「図書整理」

(キ) 博物館実習

大学における学芸員資格取得のための「博物館実習」を実施。県内の大学生および県内出身の大学生を受け入れている。

人数 11名

実習期間 8月24日(火)～8月29日(日)

実習生所属大学一覧

No.	大 学 名	人 数
1	聖心女子大学	1
2	群馬県立女子大学	1
3	東北芸術工科大学	1
4	郡山女子大学短期大学部	1
5	大正大学	2
6	首都大学東京	1
7	帝京大学	1
8	東海大学	1
9	実践女子大学	1
10	新潟大学	1
合 計		11

博物館実習プログラム

月 日	時 間	内 容	担 当	場 所	
8月 24日 (火)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班(小澤)	第2会議室	
	9:00～9:10	実習生紹介	学習支援班(小澤)	事務室	
	9:10～9:40	オリエンテーション	学習支援班(小澤)	第2会議室	
	9:50～10:50	福島県立博物館の概要	学芸課長	第2会議室	
	11:00～12:00	博物館の設備(館内外施設見学)	学習支援班(小澤)	館内外	
	—昼食—				
	13:00～14:00	常設展・フロントヤード自由観覧	学習支援班(小澤)	総合展示室	
	14:00～14:50	博物館の展示	展示班(横須賀)	第2会議室	
	15:00～16:30	自己紹介 観覧の感想・ 質疑応答	学習支援班(小澤、田中)・ 学芸課長	第2会議室	
	16:40～17:30	実習日誌の作成・提出	学習支援班(小澤、田中)	第2会議室	
	25日 (水)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班(田中)	第2会議室
		9:10～10:00	博物館の企画・運営	企画運営班(竹谷)	第2会議室
	10:10～11:00	博物館の資料と調査研究	資料整理班(相田)	第2会議室	
	11:10～12:00	考古資料について	考古分野(田中)	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～16:30	考古資料の取り扱い	考古分野(藤原、田中、大竹、横須賀)	考古作業室等	
	16:40～17:30	実習日誌の作成提出	学習支援班(田中)	第2会議室	
	26日 (木)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班(小澤)	第2会議室
9:10～10:00		資料保存について	保存科学分野(松田)	実習室	
	10:10～11:00	資料保存の実際	保存科学分野(松田)	実習室	
	11:10～12:00	民俗資料について	民俗分野(榎)	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～16:30	民俗資料の取り扱い	民俗分野(榎、佐々木、二瓶)	第1収蔵庫等	
	16:40～17:30	実習日誌の作成・提出	学習支援班(小澤、田中)	第2会議室	
	27日 (金)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班(小澤)	第2会議室
9:10～10:00		図書資料の整理・登録・管理	資料整理班(相田、長澤)	図書室	
	10:10～11:00	図書資料の整理・登録・管理 (続き)	資料整理班(相田、長澤)	図書室	
	11:00～12:00	自然資料について	自然分野(竹谷)	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～16:30	自然資料の取り扱い	自然分野(竹谷、相田、小澤)	第2収蔵庫	
16:40～17:30	実習日誌の作成・提出	学習支援班(小澤)	第2会議室		
28日 (土)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班(小澤)	第2会議室	
	9:10～10:00	博物館の学習支援活動	学習支援班(小澤)	第2会議室	
	10:10～11:00	博物館の広報普及活動	広報班(佐藤)	第2会議室	
	11:10～12:00	歴史資料について	歴史分野(阿部、星、竹内)	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～16:30	歴史資料の取り扱い	歴史分野(阿部、星、竹内)	第2会議室	
	16:40～17:30	実習日誌の作成・提出	学習支援班(小澤)	第2会議室	
	29日 (日)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班(小澤)	第2会議室
9:10～10:00		美術資料について	美術分野(川延、小林)	第2会議室	
	10:10～12:00	美術資料の取り扱い	美術分野(川延、小林)	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～14:40	美術資料の取り扱い (午前の続き)	美術分野(川延、小林)	第2会議室	
	14:50～16:10	実習を終えて(感想、意見発表)	学習支援班(小澤)・学芸課長	第2会議室	
16:20～17:30	実習日誌の作成・提出	学習支援班(小澤)	第2会議室		



博物館実習「糸紡ぎ」



相談コーナー



博物館実習「歴史資料の読み方」

(イ) 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：4件約15点 歴史：16件33点 美術：2件3点 合計：22件51点

(ウ) 講師派遣

公民館や研究団体など他団体から依頼された講座・講演に対して、学芸員を講師として派遣した。

(5) 生涯学習・研究支援

(ア) 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物の他、博物館資料に関連した一般図書や図鑑・辞書など2,494冊を配架。入館者が自由に閲覧できる。平成22年度は107冊増加した。また、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場でもある。



「化石をとって展示しよう」南相馬市博物館

講師派遣状況

月 日	講 師	演 題	主 催
4月21日	小林めぐみ	戦後会津の輸出漆器	会津若松法人会 女性部
7月27日	阿部 綾子	会津藩の歴史	会津若松税務署
8月22日	大竹 正浩	会津と平城京の人々の暮らし	歴史ウォーキングサークル
9月11日	榎 陽介	日米人形交流史	福島県立図書館
9月15日	榎 陽介	会津の民俗	鮫川村教育委員会
9月16日	高橋 充	中世期の会津	白河中央公民館
9月19日	大竹 正浩	会津と平城京の人々の暮らし	歴史ウォーキングサークル
10月23日	竹谷陽二郎	化石をとって展示しよう	南相馬市博物館
10月24日	竹谷陽二郎	化石をとって展示しよう	南相馬市博物館
10月24日	阿部 綾子	歴史文化講演会	会津史学会
11月12日	佐藤 洋一	万葉集教室	白河中央公民館
2月20日	榎 陽介	棉操り、糸紡ぎ	NPOはるなか 藍・棉・綿部会

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

(ア) 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「千少庵と蒲生氏郷」 2,200枚 企画展「森に生き山に遊ぶ！」 2,200枚 企画展「漆のチカラ」 2,500枚 特集展「ふくしまの土偶」 1,600枚 特集展「永山巨コレクション展」 1,600枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4	企画展「千少庵と蒲生氏郷」 24,000枚 企画展「森に生き山に遊ぶ！」 25,000枚 企画展「漆のチカラ」 25,000枚 特集展「ふくしまの土偶」 10,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
博物館だより (博物館の広報誌)	A4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×29.4cm 四つ折	45000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
はくぶつかん ニュース	A4両面 (館内印刷)	14,000枚×12回=168,000枚	県内公立小・中・高校 県内私立小・中学校 県内図書館・公民館・教育施設 県内市町村教育委員会 県教育事務所
月行事予定表	A4 (館内印刷)	1,300枚×12回=15,600枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
投げ込み(企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 場 者クラブ 会津若松市記者クラブ 県政記

(イ) 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

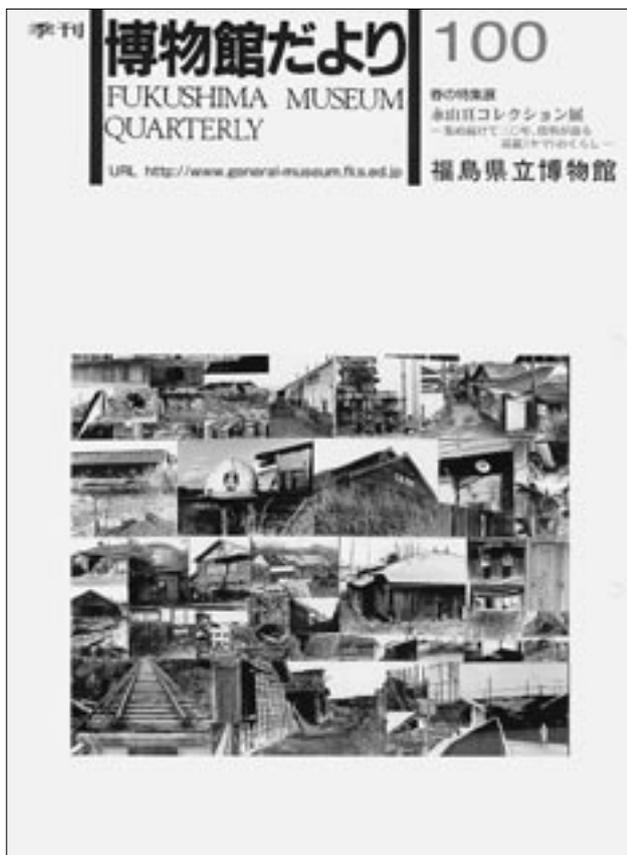
展 示 会	看板 (駅前・博物館周り)	新 聞
春の企画展「千少庵と蒲生氏郷」	○	福島民報社・福島民友新聞社
夏の企画展「森に生き山に遊ぶ！」	○	福島民報社・福島民友新聞社
秋の企画展「漆のチカラ」	○	福島民報社・福島民友新聞社
冬の特集展「ふくしまの土偶」	○	福島民報社・福島民友新聞社
春の特集展「永山亘コレクション展」	○	

(ウ) ホームページ

当館ではホームページを開設し、館の紹介およびイベントなどの各種情報を発信している。

ホームページアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リクエスト数	564,666	587,223	539,282	477,161	650,133	941,846	1050,097	748,270	400,956	414,721	399,407	414,049	7187,811
ページ数	37,708	41,346	34,871	31,178	34,157	49,121	57,296	42,472	26,288	28,887	29,404	30,039	442,767



博物館だより第100号

1. 春の企画展 「千少庵と蒲生氏郷」

- ①報道向け内覧会 (4月16日)
読売新聞社・福島民報社・ボイス・福島民友新聞社・福島テレビ
- ②新聞
 - ・福島民報「きょうから『千少庵と氏郷』県立博物館ゆかりの60点」(4月17日記事)
 - ・福島民友「ゆかりの品々紹介 千少庵と蒲生氏郷 県立博物館」(4月18日記事)
 - ・福島民友「若松・会津工高生 『天目茶碗』でお茶振る舞い 博物館企画展に合わせ」(5月10日記事)
 - ・福島民報「まちなか茶会で講演会 『千少庵と蒲生氏郷』展で」(5月25日記事)



「千少庵と蒲生氏郷」報道向け内覧会

(エ) ニュースメール

当館ではニュースメールを作成し、企画展、テーマ展示、講座、講演会などの催し物の情報などを、マスコミ向けに発信している。

平成22年度：Vol98～Vol112

(オ) 取材・報道・記事

展示会に関するものを中心に掲載する。

2. 夏の企画展「森に生き山に遊ぶ！ーふくしまの森林文化ー」

- ①報道向け内覧会 (6月25日)
福島民報社・福島民友新聞社

②新聞

- 福島民友「企画展で森林文化紹介 県立博物館など5館連携」（5月23日記事）
- 福島民報「安藤和津さん記念トーク 森林文化企画展 26日のオープニングイベント」（6月5日記事）
- 福島民報「森林文化企画展始まる 県内5施設 県立博物館で式典」（6月27日記事）



「森に生き山に遊ぶ！」報道向け内覧会

3. 秋の企画展「漆のチカラ」

①報道向け内覧会（10月8日）

福島民報社・福島民友新聞社・ボイス・河北新報社

②新聞

- 福島民友「『蒔絵バイク』展示『漆のチカラ』今日開幕」（10月9日記事）
- 福島民友「伝統の漆の技市民ら親しむ 故六角紫水氏の名品展示 県立博物館23日まで企画展」（11月16日記事）
- 福島民友「『My 箸』作りに挑戦」（11月16日記事）

4. 冬の特集展（まほろん移動展）「ふくしまの土偶」

①報道向け内覧会（12月7日）

福島民報社・福島民友新聞社



「ふくしまの土偶」報道向け内覧会

5. 春の特集展「永山巨コレクション展 ー集め続けて30年、資料が語る炭鉱（ヤマ）のくらしー」

①報道向け内覧会（3月4日）

福島民報社・福島民友新聞社

②テレビ・ラジオ

- KFB「昼のニュース（地方版）」（3月9日取材、3月11日放映）

③新聞

- 福島民友「常磐炭砒の資料紹介 県立博物館きょうから企画展」（3月4日取材、3月5日記事）
- 読売新聞「炭鉱の資料300点展示 福島県立博物館」（3月8日取材、3月10日記事）

④雑誌・情報誌（県・市町村広報誌、博物館広報誌は除く。）

- 会津嶺 2011年3月号「春の特集展 永山巨コレクション展 ー集め続けて30年、資料が語る炭鉱のくらしー」



「永山巨コレクション展」報道向け内覧会

6. テーマ展

- 福島民報「先人の歩みに思いはせ 『若松市遺跡探訪』展が開幕 県立博物館旧石器～昭和、一堂に」（5月31日記事）
- 福島民報「若松の遺跡学ぼう 県立博物館で2部構成 31日に講演や報告会」（7月25日記事）
- 福島民報「郷土の遺跡を理解 若松で講演会と報告会 『大塚山』など探る」（8月2日記事）

7. ポイント展

- 福島民報「主従のきずな、団結示す 県立博物館長さ13メートル、初公開」（9月3日記事）

8. for Kidsプログラム

- 福島民友「夜の博物館親子で探検 若松」（8月24日記事）

(2) 公聴活動

次の行事について利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成22

年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

アンケート実施行事

No	分類	行事	開催日
1	常設展	常設展ほか博物館全般	通年
2	常設展	無料開放日「子どもの日」	平成22年5月5日
3	常設展	無料開放日「県民の日」	平成22年8月21日
4	常設展	無料開放日「敬老の日」	平成22年9月20日
5	常設展	無料開放日「文化の日」	平成22年11月3日
6	企画展	千小庵と蒲生氏郷	平成22年4月17日～5月30日
7	企画展	森に生き山に遊ぶ!	平成22年6月26日～8月22日
8	企画展	漆のチカラ	平成22年10月9日～11月28日
9	特集展	ふくしまの土偶	平成22年12月7日～ 平成23年1月30日
10	特集展	永山巨コレクション展	平成23年3月5日～5月15日
11	移動展	金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代	平成22年4月21日～8月31日
12	企画展「千少庵と蒲生氏郷」 関連行事	野口英世青春通りおもてなし茶会	平成22年5月8日
13	企画展「森に生き山に遊ぶ!」 関連行事	企画展記念講演会「森は動いている」	平成22年7月18日
14	企画展「森に生き山に遊ぶ!」 関連行事	樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」	平成22年7月11日
15	ミュージアムイベント	「音の化石ーイマジネーションー」 ワークショップコンサート	平成22年5月15日
16	ミュージアムイベント	コシエル ラ ムジカ セピア色の音楽会	平成22年9月18日
17	ミュージアムイベント	クリスマスジャズライブ「古代の千年後!」	平成22年12月18日
18	ミュージアムイベント	友の会文化祭	平成22年10月17日
19	for Kidsプログラム	夏休み宿題相談会	平成22年7月28日～29日
20	講座	指導者向け研修(博物館研修講座)	平成22年8月19日
21	漆の芸術祭関連行事	シンポジウム	平成22年11月23日
22	漆の芸術祭関連行事	現代詩の巨人・旗手 会津・漆を語る	平成22年11月3日
23	漆の芸術祭関連行事	「雪と漆」「The voice of (漆)」	平成22年11月2日
24	漆の芸術祭関連	インフォメーション	平成22年10月2日～11月23日
25	漆の芸術祭関連	カキコ隊	平成22年10月2日～11月23日
26	漆の芸術祭関連	展示会場	平成22年10月2日～11月23日
27	漆の芸術祭関連	二丸屋	平成22年10月2日～11月23日

(3) 出版事業

平成22年度は次の出版物を刊行した。

(ア) 企画展図録

福島県立博物館平成22年度企画展図録

「千少庵と蒲生氏郷」 5,200冊

「ふくしまうるし物語」 1,000冊

「漆のチカラー漆文化の歴史と漆表現の現在ー」 1,000冊

(イ) 紀要

福島県立博物館紀要 第25号 600冊

(ウ) 年報

福島県立博物館年報 第24号 600冊

7. 博物館友の会活動への支援

(1) 友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等研究活動の支援などを行っている。

(2) 友の会の活動状況

ア) 友の会の概要

①発足 平成元年 3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成23年 3月19日開催予定の第23回総会は、3月11日発生した東北地方太平洋沖地震の影響による博物館休館に伴い中止した。

④平成22年度会員数

個人会員：289名 家族会員：153家族
高校生会員：18名
賛助会員：5（個人1・法人4）

イ) 平成22年度事業概要

①春の研修旅行（日本の近代化を支えた炭鉱「軍艦島」上陸と大河ドラマゆかりの「龍馬伝館」見学、長崎歴史探訪の旅）

研修先 長崎県立美術館、長崎歴史文化博物館、原爆資料館、平和公園、野母崎・軍艦島資料館（荒天欠航による軍艦島上陸中止の代替）、大浦天主堂、グラバー園、出島商館跡、二十六聖人殉教地、シーボルト記念館など

期 日 平成22年 5月18日～20日（2泊3日）
参加者 37名

長崎県立美術館、長崎歴史文化博物館では学芸員の解説を聞きながら観覧した。

②秋の研修旅行

秋に第2回友の会文化祭を開催したため、本年度に限り実施しなかった。

③第2回友の会文化祭の開催

平成22年10月17日（日）、「見て、ふれて、体験できる文化祭」をテーマに博物館との共催、会津若松市・会津若松市教育委員会の後援により第2回文化祭を開催した。友の会3サークル・博物館考古分野のほか外部から8団体の参加のもと、展示・体験が16ブース、発表が1団体の充実した内容の文化祭となった。

270余名の入場者と180余名の出展団体参加者が集い、秋の1日を楽しんだ。



月探査衛星かぐや10分の1模型の展示



ミニソーラーカー試乗



友の会春の研修旅行 長崎歴史文化博物館にて



弓矢体験



ファンファーラあいづの演奏会

ミュージアムショップ活動報告

企画展	開催期間	販売時間	日数	延べ販売員数	売上額	協力金収益	収入額
千少庵と蒲生氏郷	4/17～5/9	10:00～15:00	11日	23名	93,664円	9,630円	1,104円
森に生き山に遊ぶ!	7/17～8/8	11:00～15:00	9日	18名	65,939円	11,962円	6,357円
漆のチカラ	10/9～10/30	11:00～15:00	5日	10名	43,123円	4,372円	2,405円
		計	25日	51名	202,726円	25,964円	9,866円



友の会ミュージアムショップ

④会報の発行

年4回(季刊)、会報を発行し会員に配布した。会員の文化活動を紹介する記事を充実させ、会員の顔が見える紙面作りに努めた。

⑤博物館事業への協力

○博物館展示観覧

平成22年度友の会会員入館者数 常設展853名 企画展576名(有料企画展の春・秋2展への入場者数)

○博物館講座への協力

福島県立博物館・郡山ふれあい科学館連携事業、野外講座「郡山で化石をさがそう(郡山市逢瀬町河内高広林道)」に、友の会サークルである「友の会化石・鉱物探検隊」が参加・協力した。

○福島県立博物館友の会ミュージアムショップの開設

春・夏・秋の企画展会期に合わせて、年3期開設した。土・日曜日と祝日の延べ25日間開店した。友の会役員並びにボランティアによって運営された。また、商品選定委員会を組織して、企画展の趣旨に見合った商品選定と品揃えに努めた。第1期(4月17日～5月9日)、第2期(7月17日～8月8日)、第3期(10月9日～10月30日)。

⑥会議

○役員会 平成22年5月1日、9月11日、平成23年2月26日

○文化祭実行委員会 平成22年3月11日、5月1日、7月3日、9月11日、10月9日、11月26日

(ウ)サークル活動

1.化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数33名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の

行事にも随時協力している。

平成22年度は、春から秋にかけて会津地域および新潟県の鉱物産地を6回訪れ、地層観察と採集活動を行った。また、5月22日に郡山市で開催された博物館自然史講座「化石をさがそう」に協力し、講座参加者に対する採集指導と安全確保を行った。さらに、10月17日に開催された友の会文化祭では、「化石を取り出そう」というブースを出し、来場者に、塙町の藤田砒業株式会社からいただいた岩石ブロックから貝化石を取り出しクリーニングを行う作業の指導を行った。

平成23年1月と2月に各1回ずつ、22年度に採集した化石と鉱物の同定に関する研修会を行った。3月6日には総会と研修会を行い、会津化石研究グループの小林昭二氏に、「慶長の大地震－その仕組みと会津の大地の歴史－」という演題で講演してもらった。



野外講座「郡山で化石をさがそう」での化石・鉱物探検隊西村隊長による採集指導



友の会文化祭「化石を取り出そう」でのクリーニング指導

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は、随時20～30名が参加し、活動を続けてきた。メンバーはそれぞれ5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。平成22年度は月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代には一貫して若松城下の検断（町役人）をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であるため、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。

8. 連携事業

(1) 会津・漆の芸術祭

主催：福島県 福島県立博物館

「会津・漆の芸術祭」プロジェクト委員会（構成団体：順不同）

福島県立博物館、福島県文化スポーツ局、福島県観光交流局、福島県会津地方振興局、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター、会津若松市、会津若松市教育委員会、喜多方市、喜多方市教育委員会、喜多方市美術館、三島町、三島町教育委員会、昭和村、昭和村教育委員会、会津大学、会津大学短期大学部、会津若松商工会議所、会津喜多方商工会議所、会津漆器協同組合、会津喜多方漆器商工協同組合、会津方部商工観光団体協議会、全会津文化団体連絡会、福島県伝統工芸士会、会津工芸新生会、あいづふるさと市町村圏協議会、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社、財団法人福島県観光物産交流協会、財団法人会津若松市観光公社、会津若松観光物産協会、喜多方観光協会

(ア) 事業の趣旨

〈漆のくに・会津〉で、漆に出会う

会津は「漆のくに」である。縄文時代のはるか昔から、そして今でも、漆を守り育ててきた土地である。漆と人が重ねてきた原始・古代からの長い付き合い。自然が与えてくれたさまざまな素材の中でも漆は特別な存在として今に受け継がれている。漆と人の記憶をたどれば、そこには一つの「日本」の姿が見えるかもしれない。そんな漆とアーティストが会津の地で出会う。漆に秘められた力とアーティストの感性が出会う瞬間、そこに新たなアートと漆の物語が生まれる。また、アート作品とともに、漆に関する文化財・資料を福島県立博物館・喜多方市美術館などで展示。会津の漆文化と漆表現の現在に出会える。

さらに、漆に触れ、漆を使うイベントを開催し、その素材の力を体感・実感できる場と時を提供する。

漆の今と未来を語ろう

漆・漆器は、かつて英語で「japan」と表された。この国の名と同じ言葉で表現されていた漆は、今、日本の文化の中でどのような存在なのか。芸術祭を通して、漆文化の今と未来への問いかけと提言をおこない、これからの活用・継承・発展へ向けた発信を試みる。

「うるし」・「japan」の抱える課題や展望を考えることは、まさに「Japan」・「日本」を考えることになるはずである。

会津をめぐり、会津に触れる

芸術祭の会場は、会津若松市と喜多方市、会津の中山間地で開催する。会場に点在している漆アートを辿り、会津の自然、街並み、歴史を色濃く残す建物、食、産業、そして人に出会う。芸術祭の展示作品が会津の歴史と文化を浮き彫りにし、会津の文化と民俗を来場者が実感できる場を与えてくれることだろう。

(イ) 会期

平成22年10月2日(土)～11月23日(火)

(ウ) 会場

会津若松市（野口英世青春通り、七日町通りなど）、喜多方市（中央通り、小田付通りなど）、三島町（道の駅尾瀬街道みしま宿）、昭和村（織姫交流館）

(エ) 作品展示

①公募作品選定委員

北川フラム氏（越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター）、樋田豊次郎氏（秋田公立美術工芸短期大学学長）、山下裕二氏（明治学院大学教授）、赤坂憲雄（会津・漆の芸術祭ディレクター・福島県立博物館長）

②参加アーティスト 約100組

③出品作品数 約100点

④公開展示箇所 約50ヶ所

(オ) 関連イベント

約20件

(2) 福島の映像文化アーカイブ事業

(ア) 事業の趣旨

福島の映像文化アーカイブ事業は福島県内に残された個人および団体など所有の映像記録をデジタル化しアーカイブとして整理し、活用しようとする事業であり、福島県生涯学習課により計画された事業で、当館がその実務を担当するというものである。事業年度は平成22年度、23年度の2年間である。収集の目標としたのは昭和40年代までのフィルムである。想定されるフィルムとしては8mmフィルムと16mmフィルムがあった。35mmフィルムやパテ・ベビーというフランスの会社が作った9.5mmの規格もあるが、結果的には本事業での収集品の中にはなかった。

(イ) 事業広報

事業の広報についてはチラシを作って博物館内外で配布した。県の広報誌への掲載もあり、反響は大きかった。しかし大きな効果を上げたのはテレビやラジオの力であり、NHKラジオでの継続的な情報提供のよびかけや、NHKやTUFなどのテレビでの紹介もあった。これだけ大きな関心を寄せてもいただいた理由はやはり「古い映像」というものの魅力にあったのだと思われる。動く映像で過ぎ去った時代を振り返ることができるということが魅力的にとらえられた。

(ウ) 収集経過

平成22年6月より募集を開始したが、それ以前より生涯学習課からの呼びかけなどで情報が集まっていた。重複や情報のみ等も含めるとその件数は85件に上り、平成22年度には合計744本のフィルムが集まった。募集期間は9月末日で終了になり、フィルムの借用に入った。情報を寄せられた方からは辞退する場合もあったし、連絡がつかない方、都合の合わない方などがあり、すべてを集め尽くしたわけではない。所蔵状況がある程度把握でき、近いうちに借用する可能性のあるものを含めると全体では800本近くに達すると思われる。

借用に際してはできるだけ提供者の家に向き、話を聞いて記録することを心がけた。撮影の時期や撮影者、登場人物や当時の状況など、なるべく情報は集めた。8ミリフィルムについてはWという形式であれば古いことが分かるなど、フィルム自体によって選別することもした。

(エ) 収集フィルムについて

収集したフィルムで最も多いのが家族の記録である。家族の日常や家族旅行を記録したものが多くみられた。また結婚式を撮影したというのも多かった。自らの式の場合は友人や親戚が撮影してくれたというものであった。元県職員で農村の生活改善運動にかかわっていた人は、当時新しい簡素な式として行われていた公民館での結婚式を実施し、その様子を友人たちが撮影していた（公民館長が式を司ったという）。それでも、妻方の出席者には引き出物を用意したのだという。

ここであげたように、結婚式は伝統的な家で行うもの、町場での旅館や料亭で行うもの、生活改善運動にともなって公民館などの公共施設で行うもの、結婚式場で行うものなど時代の推移に対応して変化することがわか

る。

現代でも同じだが子どもの成長記録というのが映像収録の最も大きな動機となっている。当時は現在の手軽に撮影できるビデオと比べると、フィルム代や現像費ということを考えるとはるかに高価で趣味性の高いものであった。成長過程で地域の習俗とかかわるものもありそうだ。会津地方では1月7日の七草で子どもの成長祝いを行う地域があり、その記録がとれそうだ。

(オ) フィルムの劣化

かつてのフィルム素材であるトリセルロースアセテートが加水分解し酢酸ガスが発生し、酸っぱい匂いがするビネガーシンドローム。この匂いがするものは劣化が進行中であり、まだ上映可能なものもあると今回の委託先の会社では話していた。劣化するとフィルムがよじれたり切れたりする。こうなると映写機にかけた場合に光源とレンズの間にフィルムが正対することがなく、ゆがんだ映像を結ぶことになる。所蔵者がフィルムをつないで編集したその継ぎ目はセメントといわれる接着剤やテープで留めてあるが、それがはがれてしまうという問題などもあった。

(カ) テレシネ

デジタル化についてはテレシネといい、フィルムを上映しそれを撮影する。撮影の記録はminiDVかDVカムのテープを使用する。この両者の違いは後者が業務用であり、テープのスピードが速く安定的だということだが、DVカムは業務用のためデッキなどの入手が困難という判断で、miniDVテープへの収録にした。

テレシネ作業のもう一つの問題はフィルムのコマ数とビデオのコマ数の違いによるちらつき、フリッカーの問題である。これについても調整してもらうことになった。

なお、平成22年度にテレシネ・デジタル化作業を行ったフィルムは46件、309本である。

(キ) デジタル化

miniDVのテープに収録された映像をPCに取り込む作業があり、借用者にはDVDに焼いて渡し、当館ではハードディスクに格納して納品してもらう。DVDはmpeg2という規格のファイル形式であるが、ファイルサイズはそれほど大きくない。その後の再利用のことを考えるとなるべく大きなファイル＝高精細な情報として残したかった。そのため、Windowsに一般的なaviという拡張子をもつファイル形式で、コーデック（圧縮方法）を

DVコーデックにしてもらうことにした。ハードディスクは500GBのものの複数とした。現在は一桁上のテラのハードディスクもあるが、データの安全性なども考慮した。

(ク) 残されたフィルム

デジタル化は全体の約5分の3ほど完了した。そのため残りのフィルムのデジタル化は平成23年度の作業となる。昨年度すでに借用したものがほとんどなので、すばやくデジタル化に取り掛かることができる。現在残されているフィルムは218本であるが、すでに述べたとおりまだ収集作業が完了していないものもあるため、場合によっては若干の増加が予想される。

(ケ) 今後の保管

デジタル化したデータは2種類となる。1つはテレシネの際作られたminiDVのテープ。もうひとつはaviファイルを入れたハードディスク。これらのデータを長く保管するために世代管理の方法を取り入れ、保管メディアも複数種類用意することにより、安全な保管を目指したい。たとえば、ハードディスクを2種類用意し、複数保持する。必要に応じてブルー・レイディスクに記録データとして保管するなどである。

(コ) 今後の利用・活用

すでに平成23年度の生涯学習課の事業での映像制作の素材となることが決まっている。このほか、アーカイブとして整理し、多様な利用要望にこたえる形をとり、ひろく県民の財産として活用する予定である。パソコン上でのデータベースとして動かすために市販のデータベースソフトを利用することも検討している。

(3) 磐梯山ジオパーク構想推進事業

(ア) 事業の趣旨

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、2004年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立。2010年8月現在、ヨーロッパと中国を中心に21ヶ国66地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは保全はもとより、資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では現在14地域が日本ジオパークとして認定されており、そのう

ち4地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。当館も協議会に加入し、この運動に積極的に取り組んでいる。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。

(イ) 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、及び民間団体として文化施設およびツーリズム協会が加わっている。事務局は北塩原村観光政策課に置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区 分	機関・団体名
学 識 経 験 者	福島県立博物館
	福島県野生動植物保護アドバイザー
	猪苗代町体験交流協会
行 政 団 体	会津森林管理署
	福島県企画調整部企画調整課
	福島県会津地方振興局
	猪苗代町
	磐梯町
商 工 団 体	北塩原村
	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
観 光 協 会	北塩原村商工会
	社団法人猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
民 間 団 体	裏磐梯観光協会
	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
オ ブ ザ ー バ	裏磐梯エコツーリズム協会
	裏磐梯自然保護官事務所
事 務 局	福島県喜多方建設事務所
	猪苗代町商工観光課
	磐梯町産業課
	北塩原村観光政策課

(ウ) 活動

磐梯山地域が平成23年度に日本ジオパークネットワークに加盟認定されることを目指して、平成22年度はそのための事業を中心に活動した。

1. ジオサイトの選定

ジオパークの見どころとして計74ヶ所のジオサイトを選定した。

2. ジオパーク先進地視察、大会参加

(1) 先進地視察

世界ジオパークである糸魚川ジオパーク視察研修を実施

(2) 大会参加

- ①日本ジオパークネットワーク総会(東京)
- ②糸魚川ジオパーク大会および日本ジオパークネットワーク事前相談会・臨時総会(糸魚川市)

(3) 学会出席

日本地球惑星科学連合2010年度大会ジオパーク関係セッション(千葉市)、ポスター発表

3. 普及活動

(1) フォーラム・シンポジウム

- ①公開講演会「有珠火山とジオパーク」(後援)
- ②磐梯山ジオパークフォーラム
- ③シンポジウム・調査「裏磐梯における植生の変化と植林の再評価」

(2) 印刷物

- ①磐梯山ジオパーク構想ガイドマップ刊行
- ②エリア別詳細パンフレットの作成(第1弾「裏磐梯湖沼群」)



ガイドマップ

(3) ジオサイト解説板設置

猪苗代町2ヶ所、磐梯町1ヶ所、北塩原村3ヶ所



シンポジウム
「裏磐梯における植生の変化と植林の再評価」



「慧日寺跡」解説板

- (4) 出前講座・公開講座
小・中・高校および地区住民に対しての
出前講座の実施
 - (5) ホームページ
ホームページの立ち上げ
 - (6) シンボルマーク
シンボルマークの募集・選定・公表
- 4. ガイド養成**
- ①ガイド養成講座第1回「裏磐梯の自然を学ぶ」
 - ②ガイド養成講座第2回「磐梯火山のおいたち・1888年の噴火」
 - ③ガイド養成講座第3回「磐梯山信仰と慧日寺」
 - ④第1回ジオパーク解説員養成講座「磐梯山の地形と地質」
- 5. 日本ジオパークネットワーク加盟申請
申請書作成**



公開講座「磐梯山とジオパーク」



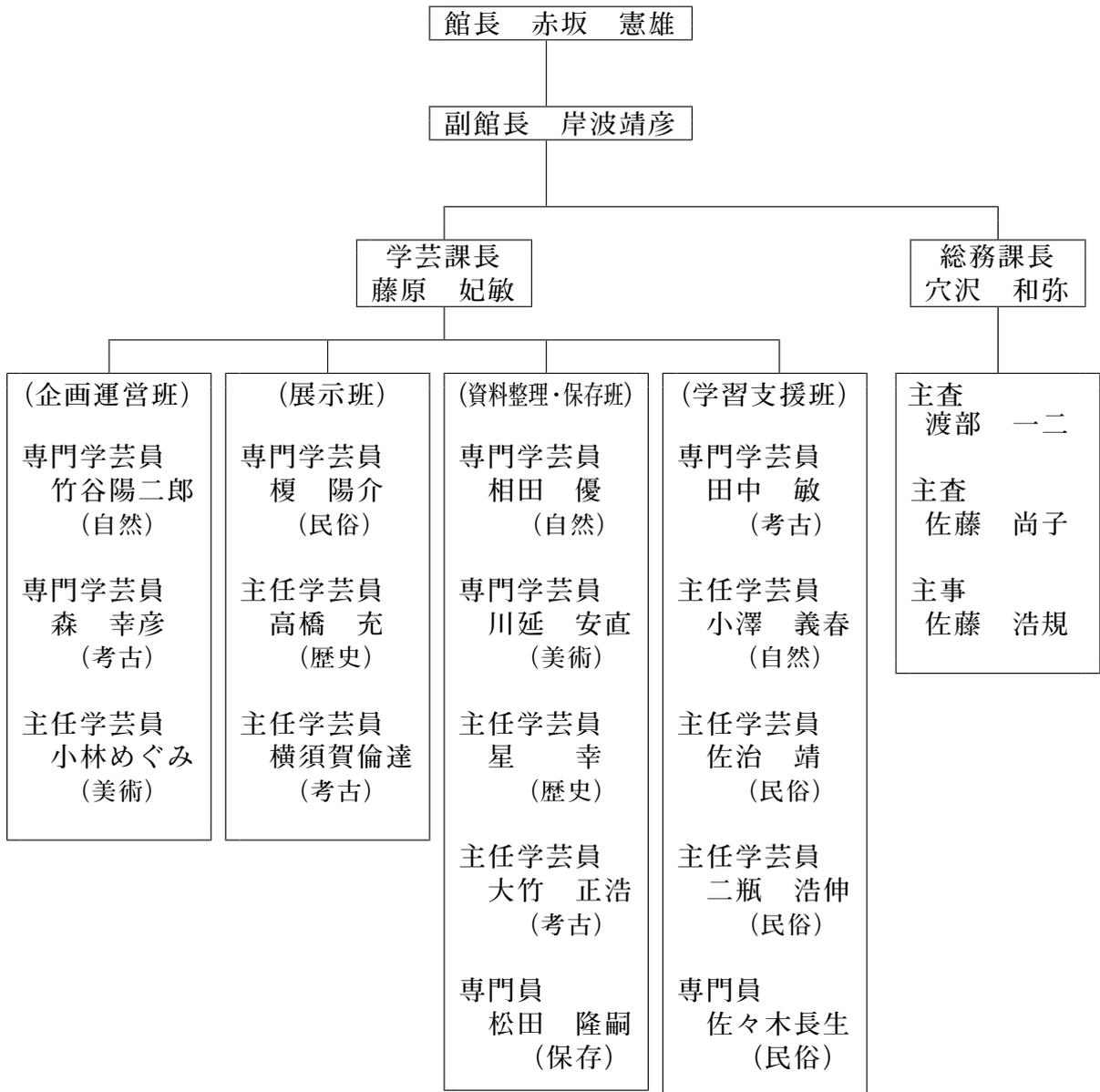
ガイド養成講座「磐梯火山のおいたち・1888年の噴火」

Ⅲ 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成22年4月1日現在)



(定数外)

- 展示解説員 (嘱託) 13名
- 資料整理員 (嘱託) 2名

嘱託員等名簿

職名	氏名	職名	氏名
展示解説員	赤羽 愛	展示解説員	齋藤 史子
	五十嵐 早苗		後藤 詩織
	大坪 千絵美		及川 幸
	伊関 めぐみ		工藤 日花里
	佐藤 彩美		加藤 悦子
	篠原 詩子	資料整理員	竹内 咲
	増井 文夏		長澤 宏子
	一条 稚子		

(広報班)
専門学芸員 佐藤 洋一 (歴史)
主任学芸員 船尾 武彦 (民俗)
主任学芸員 金澤 文利 (美術)
副主任学芸員 阿部 綾子 (歴史)

2. 予 算

平成22年度は、下表のとおり予算を執行した。

予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)			金 額
使用料及び手数料			7,341
	使 用 料		7,341
		行政財産使用料	426
		建 物 使 用 料	426
		教 育 使 用 料	6,915
		博 物 館 使 用 料	6,915
財 産 収 入			3,343
	財 産 売 払 収 入		3,343
		物 品 売 払 収 入	3,343
		その他物品売払代金	3,343
諸 収 入			920
	雑 入		920
		雑 入	920
		雑 入	920
合 計			11,604

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)			金 額
総 務 費			628
	県 民 生 活 費		628
		県 民 生 活 対 策 費	628
		需 用 費	628
労 働 費			11,756
	雇 用 対 策 費		11,756
		緊 急 雇 用 対 策 費	11,756
		共 済 費	1,485
		賃 金	9,654
		需 用 費	398
		役 務 費	219
教 育 費			223,654
	教 育 総 務 費		4,863
		事 務 局 費	3,708
		報 酬	2,400
		職 員 手 当	1,260
		共 済 費	48
		財 務 管 理 費	1,155
		工 事 請 負 費	1,155
	社 会 教 育 費		218,791
		社 会 教 育 総 務 費	29,477
		報 償 費	6,533
		旅 費	2,336
		需 用 費	7,565
		需 用 費 (食糧費)	140
		役 務 費	6,250
		委 託 料	5,663
		使 用 料 及 び 賃 借 料	1,130
		博 物 館 費	189,314
		報 酬	24,461
		共 済 費	3,698
		賃 金	1,478
		報 償 費	444
		旅 費	1,993

		需用費	41,668
		需用費(食糧費)	14
		役務費	3,231
		委託料	49,101
		使用料及び賃借料	752
		工事請負費	61,340
		備品購入費	1,021
		負担金、補助及び交付金	61
		公課費	66
合 計			236,038

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

(ア) 運営協議会委員

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから10名に委嘱している。また、平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

(イ) 会議

第1回 平成22年6月25日(金)

議題

- ①平成22年度企画展及び漆の芸術祭等について
- ②県立博物館中期目標の達成状況等について
- ③その他

第2回 平成23年2月18日(金)

議題

- ①平成22年度事業実施概要について
- ②平成23年度事業計画について
- ③県立博物館中期目標の達成状況について

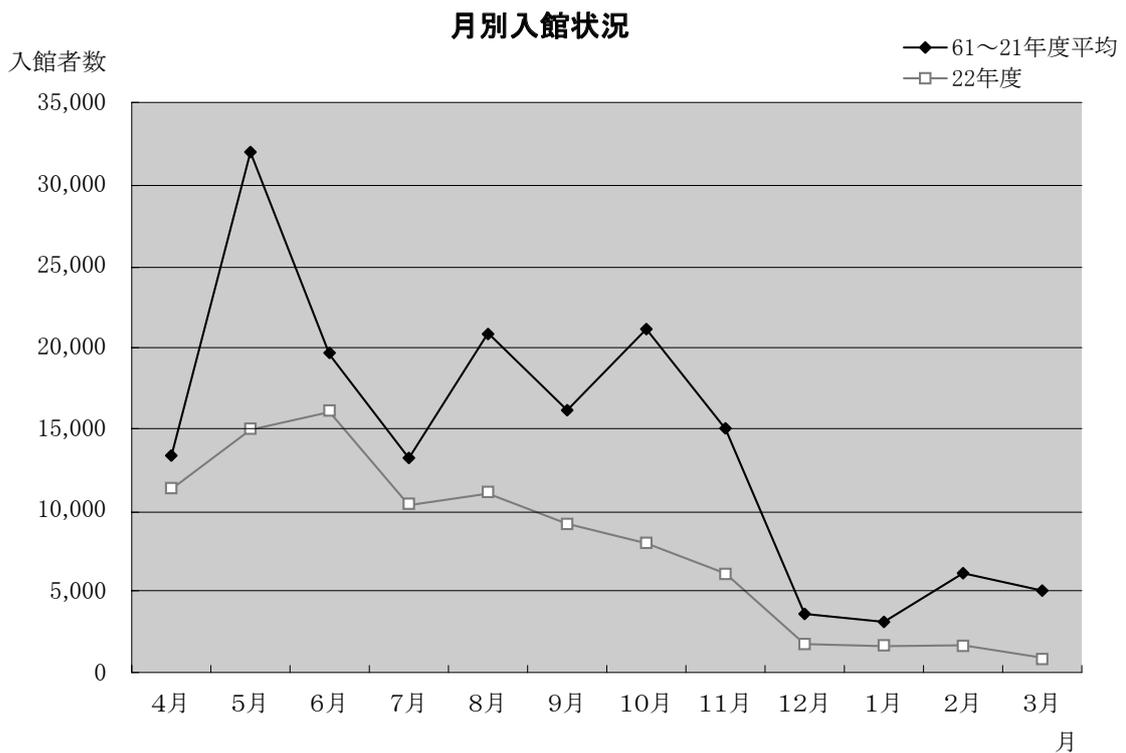
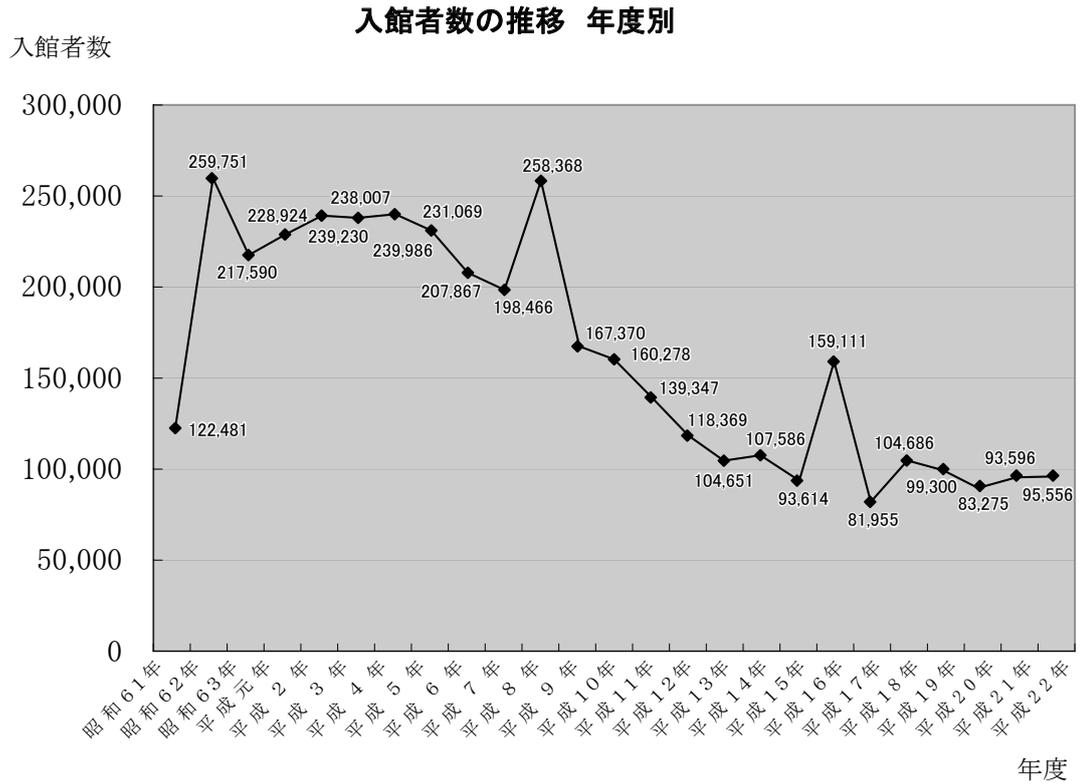
運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	古川 満里子	福島市立蓬莱東小学校長
	渡部 裕二	会津若松市立第四中学校長
	渡部 裕一	県立会津高等学校長
社会教育	会長 富田 孝志	(財)福島県文化振興事業団 理事長
	外島 正弘	喜多方市中央公民館長
学識経験者	副会長 佐藤 弘子	会津大学コンピュータ 理工学部非常勤講師
	伊藤 豊松	喜多方市文化財保護審議会 会長
	井上 禮子	会津若松市教育委員会 委員
	渡辺 紀子	公募委員
	新国 勇	公募委員

(2) 入館者の推移

入館者の推移 (年度別・月別)		61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
4月			25,919	20,561	25,699	22,750	22,851	16,637	17,975	15,320	16,571	12,433	13,521	14,922
5月			48,367	35,853	52,872	50,265	52,723	56,983	50,452	38,693	42,832	40,138	39,844	34,430
6月			17,831	14,823	20,356	19,043	23,592	23,841	29,319	20,737	28,622	18,185	22,279	24,933
7月			23,356	22,651	18,456	24,050	20,340	22,800	21,138	12,328	15,340	9,725	8,036	9,541
8月			40,749	32,396	31,127	34,218	33,257	37,431	28,490	25,837	23,785	21,495	15,803	16,208
9月			24,259	20,198	18,248	17,008	21,882	20,334	18,285	16,551	16,428	15,879	13,082	13,794
10月	31,758	27,099	29,648	26,832	34,201	21,851	18,565	17,592	20,022	28,034	20,252	64,772	26,015	18,431
11月	49,868	27,082	21,234	16,058	18,482	15,682	17,592	17,592	15,629	19,857	15,096	50,811	10,290	9,061
12月	8,860	5,548	4,512	3,369	2,303	3,618	4,028	4,028	6,989	7,839	2,048	9,473	2,125	2,395
1月	6,531	4,010	4,959	4,048	3,813	8,675	5,073	4,993	4,993	4,732	2,701	3,141	2,111	3,218
2月	13,614	7,653	6,350	6,986	5,982	7,006	9,096	9,096	9,137	9,197	7,631	6,700	7,578	9,770
3月	11,850	7,878	4,405	4,873	7,115	6,530	7,606	7,606	8,640	8,742	7,160	5,616	6,686	3,575
合計	122,481	259,751	217,590	228,924	239,230	238,007	239,986	239,986	231,069	207,867	198,466	258,368	167,370	160,278
日数	133	297	296	299	299	299	297	297	293	296	298	294	295	295
日平均	921	875	735	766	800	799	808	808	789	702	666	879	567	474
月平均	20,414	21,646	18,133	19,077	19,936	19,834	19,999	19,999	19,256	17,322	16,539	21,531	13,948	13,357
累計	122,481	382,232	599,822	828,746	1,067,976	1,305,983	1,545,969	1,777,038	1,984,905	2,183,371	2,441,739	2,609,109	2,769,387	2,769,387
区分	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	平均	
4月	13,456	10,539	8,473	8,028	4,899	8,770	8,440	7,019	7,419	6,521	7,977	11,669	13,770	
5月	30,999	21,341	20,267	19,242	13,884	19,287	14,548	11,381	12,271	10,730	13,060	15,085	31,759	
6月	23,659	18,775	16,475	17,211	12,884	16,768	12,008	14,151	25,016	13,011	11,912	16,283	19,367	
7月	9,051	7,127	5,682	4,706	8,732	20,318	7,507	5,246	6,808	7,401	7,356	10,472	12,943	
8月	13,607	13,184	8,451	14,702	10,630	34,732	7,157	10,548	7,148	8,582	14,280	11,658	21,036	
9月	12,175	12,794	13,423	19,901	12,525	35,813	8,787	13,405	10,084	10,326	16,864	9,513	16,611	
10月	15,696	15,609	12,192	10,688	13,000	11,227	11,972	25,464	12,495	11,388	9,211	8,522	21,518	
11月	7,937	8,120	5,825	5,265	7,693	5,440	4,374	9,029	8,261	6,798	6,761	6,280	15,094	
12月	1,582	1,801	5,797	1,078	1,665	2,192	926	1,989	1,938	1,558	1,383	1,637	3,542	
1月	2,714	829	1,412	1,196	1,235	855	1,159	1,468	1,627	1,037	1,127	1,947	3,028	
2月	4,795	5,353	3,836	3,183	3,733	2,019	2,815	2,928	2,943	2,193	1,815	1,796	5,930	
3月	3,676	2,897	2,818	2,386	2,734	1,690	2,262	2,058	3,290	3,730	1,850	694	5,003	
合計	139,347	118,369	104,651	107,586	93,614	159,111	81,955	104,686	99,300	83,275	93,596	95,556	169,598	
日数	294	301	303	306	302	302	305	310	306	306	306	306	293	
日平均	393	393	345	352	310	527	269	338	325	272	306	306	326	
月平均	11,612	9,864	8,721	8,966	7,801	13,259	6,830	8,724	8,275	6,940	7,800	7,963		
累計	2,908,734	3,027,103	3,131,754	3,239,340	3,332,954	3,492,065	3,574,020	3,678,706	3,778,006	3,861,281	3,954,877	4,050,433		

入館者数の推移グラフ（年度別月別）



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武家の文化	61.10.18~61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17~62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18~62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18~62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17~62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23~63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16~63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16~63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の植輪	63.10. 8~63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21~元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18~元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4~元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22~元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20~ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂欧堂田善とその系譜	2. 4.21~ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6~ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22~ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19~ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16~ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20~ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10~ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18~ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18~ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18~ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17~ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16~ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17~ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17~ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16~ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22~ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23~ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23~ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8~ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21~ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検員化石ワールド	7. 4.22~ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22~ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7~ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20~ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
8	福島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44日	8,931人	976人	12,432人	22,339人
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10.7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540

19	樹 と 竹	19. 7.21~19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく！化石大集合	19.10. 6~19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝 の 山 2 0 0 8	20. 7.19~20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠 藤 香 山	20.10.11~20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10~21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179

※平成16年度のアートオブスター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	価格	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
常設展示図録	1,100	2	6	5	4	7	9	8	8	1	4	4		58	63,800
武家の文化	600	1	3	2		2	1	1			1			11	6,600
ふくしまの顔	500	1	1											2	1,000
陸奥の古瓦	400	3			2		4	1	1					11	4,400
江戸時代の流路	500	1	2	1	1	5	2	2	3			1	2	20	10,000
鉱物の世界	400	1	2		1	1	1	1		1		1		9	3,600
縄文の四季	500	3	1		1	2	4	5	3	3	3	1		26	13,000
まちの成立とにぎわい	500	1	1				3			1	1	1		8	4,000
垂欧堂田善とその系譜	1,000	1		1				2		1		1		6	6,000
太古の生きものたち	500	1												1	500
日本の音色	800				1		1	1	1					4	3,200
シルクロード紀行	1,000	1					1							2	2,000
縄文絵巻	800	2	3	10	1			1		4	7	2		30	24,000
浜通りの仏像	500			3		1	2		1		2		3	12	6,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1				2	2	2	2			18	1	28	22,400
マンガ文化の源流	1,000					1		1	3		1			6	6,000
恐竜のあるいた道	500													0	0
定信と文晁	1,000	1	2	1					1					5	5,000
明治はじめて物語	500				1		2	1						4	2,000
稲とくらし	800	2				2	2		2	3				11	8,800
東北からの弥生文化	800	2	1		1		1	1	1	1		1		9	7,200
会津の自然史	800	1			1	2				1			1	6	4,800
玉堂と春琴・秋琴	1,100	1	1			1			2	1				6	6,600
げんき・病・元気	800					1		1	1					3	2,400
村芝居の世界	900				1				1					2	1,800
探検員化石ワールド	800	1			1	2			1					5	4,000
海のまくあけ	800					1		1						2	1,600
福島1000年時のかたち	900	1					1				1			3	2,700
いにしえの木の匠	600	1	1	1		2	2	4	6			2	1	20	12,000
福島の山岳信仰	800	1	1	1	1	5			2		1		1	13	10,400
地震・火山・津波	500	1				2		1				1		5	2,500

書籍名	価格	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
近代子どもの世界	900						1							1	900
縄文たんけん	900		1			2	1	1		2	3	1		11	9,900
日本の魚学・水産学事始め	500	1												1	500
染める	600				1	1	1		2				1	6	3,600
遠澤と探幽	1,300	1					2					1		4	5,200
戦国の城	800	5	4	2	1	7	2	5	8	10	2	1		47	37,600
天の絹糸	1,300	1	2	1	2	1		2	3					12	15,600
日本の美	800	1			1	1								3	2,400
水河時代	700					1			1	1				3	2,100
新弥生紀行	1,100	1		5	2	3	9	1	5	2	1	1		30	33,000
生の中の死	900		1		2	1	1	1	1	1			1	9	8,100
豊かなる世界へ	600			1	3		1	1	1	1	1	1		10	6,000
集古十種	1,100	2	4	1	1	2	4	1				3	2	20	22,000
海獣パレオパラドキシア	600			2										2	1,200
英雄たちの系譜	500				2			1						3	1,500
食と考古学	1,000	2		1	1	2	4		1	2			1	14	14,000
肖像に見る福島を築いた人々	1,700	1		1										2	3,400
武者たちが通る	800			3	2	3		2	2			3	1	16	12,800
発掘ふくしま3	1,100	1			2	2	1							6	6,600
笑いの想像力	2,000			1	1			1	2					5	10,000
老い	2,000													0	0
婚礼	1,500	1	1	1					1				1	5	7,500
馬と人との年代記	1,600		1	1		3	5		2			1	1	14	22,400
布の声をきく	1,300	2		2	2	2	1	2	1					12	15,600
徳川将軍家と会津松平家	1,200	11	27	3	3	6	6	5	3	1	2			67	80,400
樹と竹	1,200	1		3	3	4	1	7	7	3	2	1		32	38,400
わくわく！化石大集合	800			1	1	1								3	2,400
古代会津	250	8	8	2	35	3	11	5	6	5				83	20,750
会津磐梯山	1,000	1	1	4		1			1	1	1			10	10,000
遠藤香村	1,500	2	2	1				1		1	1			8	12,000
岡本太郎の博物館	1,000	1				1			4					6	6,000
千少庵と蒲生氏郷	500	2,762	1,027	105	46	11	35	6	7	87	4	4	1	4,095	2,047,500
漆のチカラ	800								117	16	10	4	1	148	118,400
福島の土偶	500									30	51	4	154	239	83,500
紀要(数量)		10	4	2	6	3	11	5	17	6	2	4	1	71	
紀要(金額)		14,100	5,400	3,200	9,300	4,600	17,700	8,600	24,100	9,100	4,000	5,200	1,000		106,300
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	1	4	1	2	5	4	1	4	1	2		2	27	35,100
福島の古墳	1,200	2	3				5	4	1		2	1		18	21,600
福島の化石	1,500					1			1					2	3,000
戦時下の福島	800	2	1	1		2		3				1		10	8,000
福島の年中行事	1,100				1				2					3	3,300
ガイドブック	300	8	5	6	8	8	3	7	2	2	1	1	2	53	15,900
手引き(小)	700					2	2	2						6	4,200
常世原田遺跡	600													0	0
ふくしまの農具	1,000	1	4		2			2	2	3	3	1		18	18,000
報告書(数量)		18	11	4	7	15	6	13	25	9	5	3	1	117	0
報告書(金額)		19,900	9,100	5,100	7,100	16,200	5,900	13,500	30,400	11,800	5,700	3,500	700		128,900
絵葉書	50	34	52	23	47	42	36	48	45		6	7	9	349	17,450
クリアホルダー	200	12	20	6	5	13	15	3	11	1		2	2	90	18,000
合計		2,924	1,208	209	206	188	206	164	324	202	120	78	190	6,019	3,289,300

V 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年12月24日条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月24日条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額(一人当たり)		特 別 観 覧 料 の 額
	個 人	団 体	
一 般(大 学 生 を 含 む。)	260円	210円	その都度知事が定める額
高 校 生 及 び こ れ に 準 ず る 者	無 料	無 料	その都度知事が定める額
中 学 生 及 び 小 学 生	無 料	無 料	その都度知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

(昭和61年3月25日条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年3月25日教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

3 1月1日から同月4日まで

4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)

3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
 - 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額
- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館	観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及
び代表者の氏名 印
観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日		時 分から 時 分まで	
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職 氏名			
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
第 号 年 月 日				
上記のとおり承認してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日		時 分から 時 分まで	
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及
び代表者の氏名 印
観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人数	金額
			人	円
	合計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	
受付月日	・ ・	決裁月日	・ ・	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則（平成6年3月15日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月27日教育委員会規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。
附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第18号）
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。

3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

（1）展示計画原案の作成

（2）展示計画作成のための基礎的資料の収集

（3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

（1）調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

（2）調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

- (3) 調査の時期
4月1日から3月31日とする。
- (4) 調査カードの作成・提出
調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
- 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会	長	1名
副	会 長	若干名
幹	事	若干名
監	事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

3 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

2 役員会は、必要のつど会長が招集する。

3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。

4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)。

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)。

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)。

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)。

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)。

7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)

VI 施設の概要

1. 建築概要

<p>設計者 (株)佐藤武夫設計事務所 工事監理 福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所 施工者 建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株) 共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備) 工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株) 共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他 設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備) 工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)</p> <p>面積 敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡</p> <p>建築事業費 6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739</p> <p>規模 地上2階 最高の高さ 20.6m 最高の軒高 13.6m 地域地区 住居地域 風致地区第1種</p>	<p>構造 主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭 外部仕上げ 屋根 厚0.6%硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャスト コンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ 内部仕上げ (エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40% 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12% 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12% 壁 杉板厚12% ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12% 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12% 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板</p> <p>工期 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日</p>
---	--

2. 設備

<p>電気設備 1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA 2. 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ A H - P E 200AH86セル 3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共 同視聴設備、自動火災報知器設備、 防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、 非常用放送設備、ITV監視設備 4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデ ッキ、音響総合ラック</p> <p>空調設備 1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファン コイル ユニット方式 2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユ ニット(120RT)</p> <p>衛生設備 1. 給水 市水道 受水槽:50㎡</p>	<p>2. 消火設備 (屋内) スプリンクラーとハロン消化設 備の併用、(屋外) 野外消火栓</p> <p>昇降機設備 油圧式エレベーター定格荷重:3t1基 油圧式リフト 定格荷重:2t1基</p> <p>融雪設備 ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根 ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地 面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地 面温度センサーの組み合わせにより自動 運転または手動運転。</p> <p>監視設備 分散形総合監視制御システムにより、受 電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・ 融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及 び計測監視を行う。</p> <p>電話設備 電子交換外線3回線 内線64回線 火災報知設備 受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線 (防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感 知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図 盤(照光式)により表示</p> <p>防犯設備 電波センサー・電子サイン・ITVを必要 箇所設置し、監視制御システムと併用</p>
---	---

各室面積表

室名	面積(m ²)	備考	室名	面積(m ²)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (m ²)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・収蔵資料用
研究スペース	788.3 (m ²)		機械スペース	1,253.1 (m ²)	
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (m ²)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (m ²)	
教育普及スペース	693.1 (m ²)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワークショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (m ²)		その他	1202.64	
事務室	166.1		計	11071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場2台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～18.3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～18.3.17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～18.3.23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～19.3.23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～19.3.19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～21.3.24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換2回（～21.12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
平成22年 2月17日	企画展示室改修工事（～22.3.29）
平成22年11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
平成22年11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～23.4.25）

VII 利用案内

●開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

●休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内くん蒸などのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生260円（210円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
 - ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。（常設展のみ）
 - ★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料また1種（精神障害者保健福祉手帳にあつては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。
 - ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。（常設展のみ）
 - ★展示室以外の入館は無料。

●常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／9月第3月曜日（敬老の日）／11月3日（文化の日）／8月21日（県民の日）

●企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月7日（ふくしま教育週間）

●交通案内



◎会津若松駅より約3 km

◎市内バス利用の場合

- ①市内1コース 県立病院前下車徒歩5分
- ②鶴ヶ城経由飯盛山行 鶴ヶ城北口県立博物館前下車徒歩4分
- ③まちなか周遊バス「ハイカラさん」 鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第25号

平成23年9月30日 印刷

平成23年9月30日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。

福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000